

# うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画

～ 公民連携による地域の経済活性化 ～

令和5年3月  
うるま市

## 目次

第1章 勝連・与那城地域まちづくり推進計画について .....	1
1. 計画策定の目的 .....	1
2. 計画の対象区域・期間 .....	2
(1) 対象区域 .....	2
(2) 対象期間 .....	3
(3) 計画の位置づけ .....	4
3. 計画検討にあたり留意すべき視点 .....	5
(1) うるま市全体の中での役割 .....	5
(2) 持続可能なまちづくり .....	5
(3) 防災や安全・安心 .....	5
4. 計画策定体制・プロセス .....	6
(1) 計画策定体制 .....	6
(2) 計画策定のプロセス .....	7
第2章 うるま市及び勝連・与那城地域の概要 .....	8
1. うるま市の概要 .....	8
(1) 位置・地理 .....	8
(2) 歴史・沿革 .....	9
2. 勝連・与那城地域の概要 .....	10
(1) 位置・地理 .....	10
(2) 歴史・沿革 .....	10
(3) 主な地域資源 .....	11
第3章 うるま市及び勝連・与那城地域の現状分析 .....	13
1. 人口・産業等 .....	13
(1) 人口 .....	13
(2) 産業 .....	17
(3) 観光 .....	21
2. 既存計画における位置づけ .....	24
(1) 第2次うるま市都市計画マスタープラン（令和5年3月） .....	24
(2) 第2次うるま市観光振興ビジョン（令和5年3月） .....	26
(3) 第2次うるま市産業振興計画（令和4年3月） .....	30
(4) 東海岸開発基本計画（平成23年3月） .....	32
(5) 津堅島振興総合計画（令和3年8月） .....	34
(6) うるま市総合交通戦略（令和2年3月） .....	37
(7) うるま市自転車ネットワーク計画（東部地区）（平成30年8月） .....	40
3. 勝連・与那城地域に対する関係者の認識 .....	43
(1) 住民 .....	43
(2) 関係団体等 .....	45
(3) うるま市役所関係部署 .....	46
(4) 事業者 .....	47

4.	分析結果の整理	49
	(1) 勝連・与那城地域の特長・強み	49
	(2) 勝連・与那城地域の課題・弱み	50
第4章	勝連・与那城地域の目指す姿	51
1.	まちづくり推進の施策体系	51
2.	勝連・与那城地域の将来像	52
3.	基本方針	54
	(1) 消費や滞在の受け皿となる誘客拠点の形成	54
	(2) 選ばれる地域となるための特色ある魅力づくり	54
	(3) 誘客の恩恵を地域全体に波及させるための環境整備	54
4.	まちづくり推進に向けたプロジェクト	55
	プロジェクト1「勝連城跡周辺の魅力向上」	56
	プロジェクト2「海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上」	62
	プロジェクト3「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進 ～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～」	66
	プロジェクト4「勝連地域における既存ストックの利活用推進」	73
	プロジェクト5「きむたかホールの機能強化による 文化観光ネットワークの構築」	77
	プロジェクト6「島しょにおける民間活力導入の推進」	81
	プロジェクト7「広域からの誘客促進及び回遊性向上」	87
5.	プロジェクトの推進による勝連・与那城地域の将来イメージ	90
	(1) 短期（～2030年度）	90
	(2) 中期（～2035年度）及び長期（2036年度～）	90
第5章	リーディングプロジェクト	92
1.	リーディングプロジェクトについて	92
	(1) 位置づけ	92
	(2) 選定基準	92
	(3) 選定結果	93
2.	リーディングプロジェクトの推進に向けた検討	95
	(1) プロジェクト1「勝連城跡周辺の魅力向上」	95
	(2) プロジェクト2「海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上」	103
	(3) プロジェクト3「旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進 ～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～」	106
第6章	まちづくりの推進に向けて	117
1.	推進体制	117
2.	進捗管理・見直し	117
参考資料		119
I	地域住民アンケート結果	119
II	特定用途制限地域の制限の概要（令和4年改正）	134



## 第1章 勝連・与那城地域まちづくり推進計画について

### 1. 計画策定の目的

勝連・与那城地域は、市の上位計画において、島しょ部への玄関口の役割を果たしつつ、豊かな自然環境を守りながら勝連城跡などの歴史伝統文化を活用した賑わいのあるまちを目指すこととされている勝連半島と、多様な資源を活用した地域振興により賑わいの創出を図ることとされている島しょ地域から構成されています。これらの方針に基づき、まちづくりを具体的に推進していくための計画が必要とされています。

また、本市では、市全体の方針を定める上位計画や各分野の計画等を複数策定していますが、東西と南北に長い地形を有し、島しょを市域に含む本市の特性上、地域単位でまちづくりの方向性を定めていくことの必要性が他の市町村に比較して大きいと考えます。加えて、これら既存の計画・事業間の連携や優先順位付けが不十分な状況がみられ、住民の理解や事業者の参画が進まない要因の一つになっていると考えます。

このことから、勝連・与那城地域まちづくり推進計画では「公民連携による地域の経済活性化」に主眼を置き、地域の将来像やまちづくりの基本方針を明確化するとともに、既存の計画・事業を整理し、必要に応じて新たな取組も加えてまちづくりの推進に資する複数のプロジェクトとして取りまとめます。そして、プロジェクトの実現方策や優先順位を示すことで、住民の理解や協働によるまちづくり、事業者の参画や投資の促進を図り、実効性のあるまちづくりに繋げることを目的とします。

## 2. 計画の対象区域・期間

### (1) 対象区域

本計画の対象区域である勝連・与那城地域は、本市の東部及び島しょ部から構成されており、面積は約 32.63 km<sup>2</sup>、人口は約 2.4 万人となっています。<sup>1</sup>

計画対象区域



出所：うるま市「第2次うるま市都市計画マスタープラン」、「第2次うるま市総合計画 後期基本計画 2022-2026」を基に作成

<sup>1</sup> 面積及び人口は、令和2年国勢調査結果に基づく。

## (2) 対象期間

本計画は 2035 年度（令和 17 年度）までを対象期間とします。対象期間中は本計画に定めるまちづくりの推進に向けた各プロジェクトを推進し、目標を達成するための進行管理を行うとともに、必要に応じて計画の見直しを行います。

なお、各プロジェクトは短期（～2030 年度（令和 12 年度））、中期（～2035 年度（令和 17 年度））、長期（2036 年度（令和 18 年度）～）として取組を整理し、必要に応じて長期（2036 年度（令和 18 年度）～）の取組も本計画に位置づけるものとします。

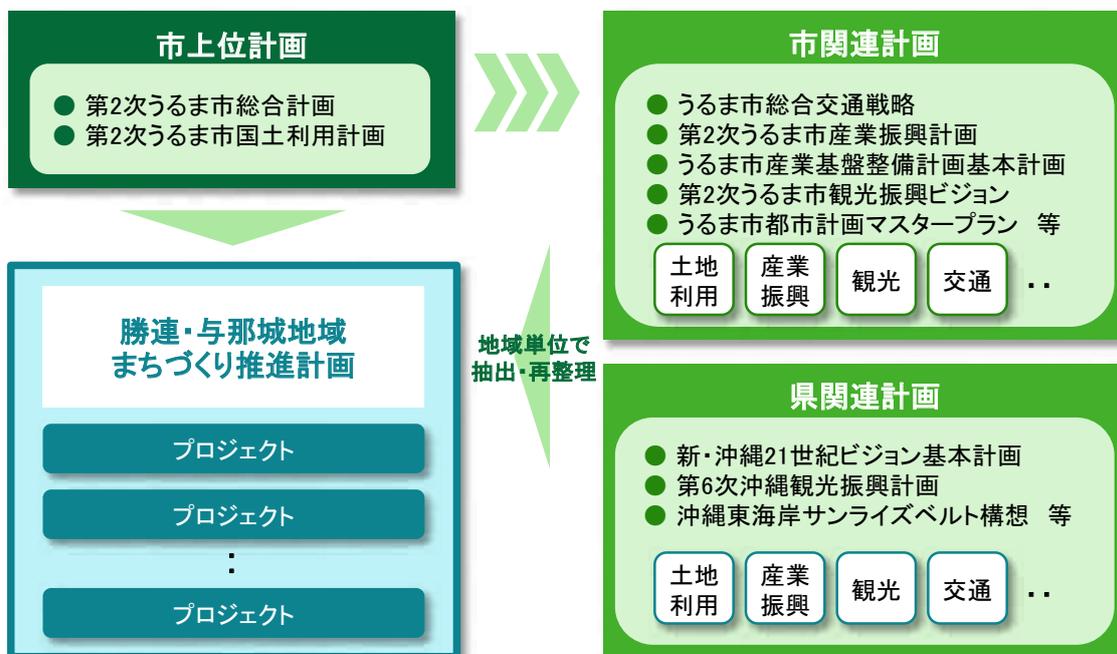
対象期間とプロジェクトの取りまとめイメージ



### (3) 計画の位置づけ

本計画は、市の上位計画に基づく計画として策定します。また、市や沖縄県の関連計画との連携や整合を図りつつ、必要に応じて新たな取組も加え、地域単位でのまちづくりの指針となる計画として位置づけられます。

勝連・与那城地域まちづくり推進計画の位置づけ



### 3. 計画検討にあたり留意すべき視点

#### (1) うるま市全体の中での役割

うるま市は、本計画の対象である勝連・与那城地域のほか、市の上位計画で中心拠点と位置づけられている具志川地域や、副拠点と位置づけられている石川地域から構成されています。それぞれの地域の特色を生かしつつ相互に補完し合い、うるま市全体として最適なまちづくりを推進する視点を持って検討します。

#### (2) 持続可能なまちづくり

うるま市では、将来にわたって充実した市民サービスの提供を可能とするため、公共施設の集約化・複合化等の公共施設マネジメントを推進しています。公民連携によるまちづくりを推進するうえでは、財政負担を伴う新たな公共施設やインフラ等の整備が生じることも想定されますが、これまで推進してきた公共施設マネジメントの取組との整合性を考慮し、過大な投資や施設間での役割の重複等が生じないように留意し検討します。

#### (3) 防災や安全・安心

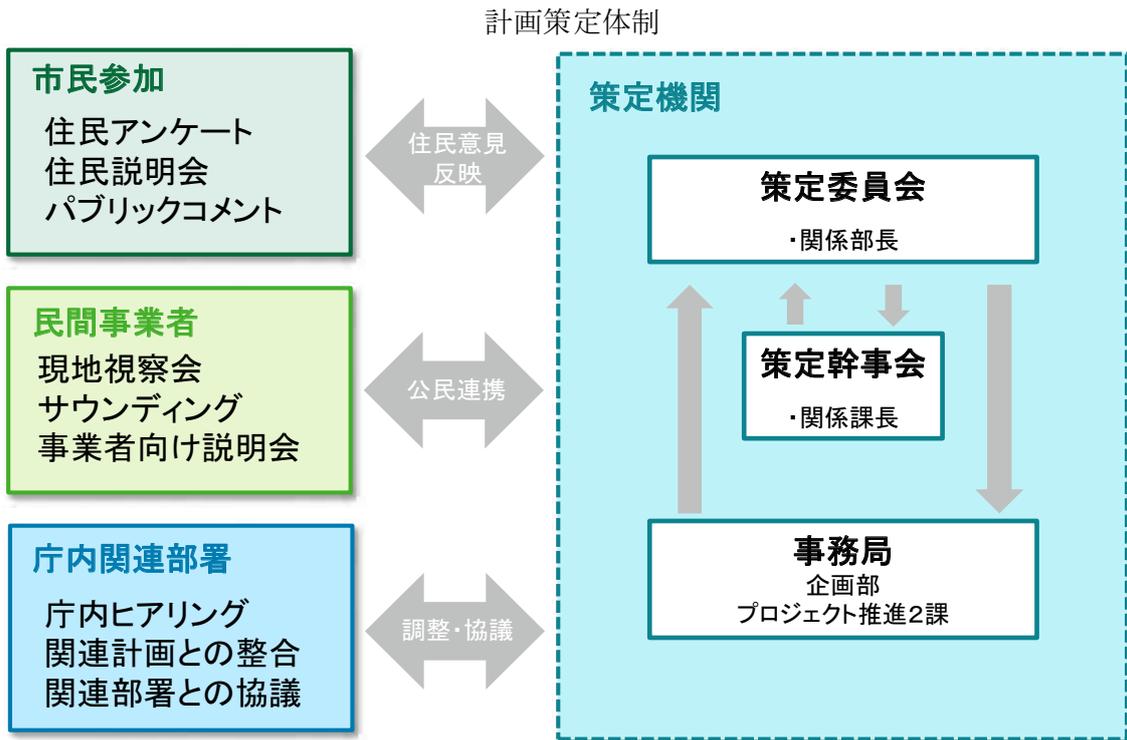
まちづくりを推進する中では、新たに多くの人を訪れる場所や、民間事業者等が大きな投資を行う場所等が生じることが想定されます。災害発生時にも来訪者や市民、民間事業者等の貴重な命や財産を守る視点を持つとともに、環境の変化に伴い地域住民等の安全・安心な生活が脅かされることのないよう留意し検討します。

#### 4. 計画策定体制・プロセス

##### (1) 計画策定体制

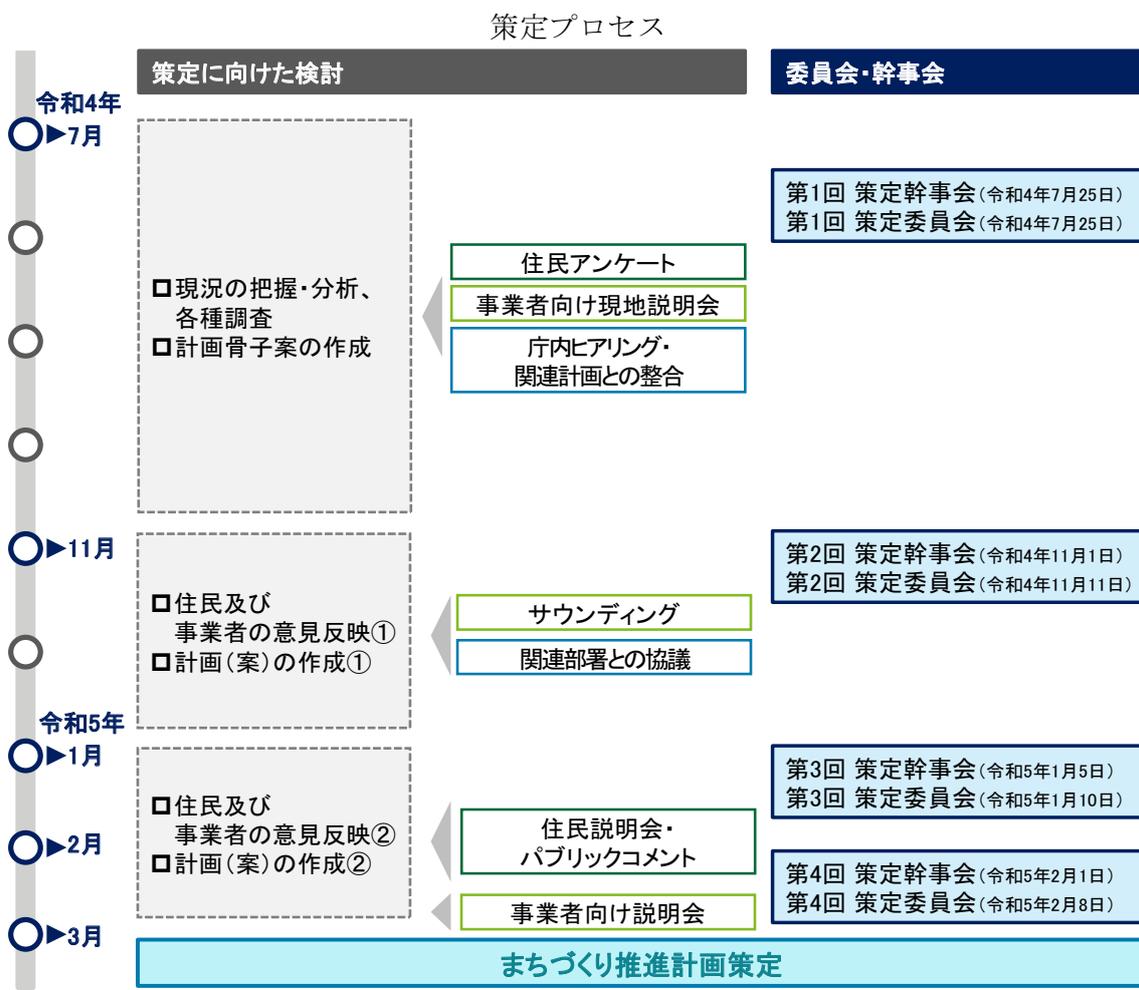
本計画の庁内検討組織として、関係課長をもって構成する「策定幹事会」と、関係部長をもって構成する「策定委員会」を設置し、庁内関連部署と連携しながら本計画を策定します。

策定事務の総括、策定幹事会及び策定委員会の事務局は、企画部プロジェクト推進2課が担当します。



## (2) 計画策定のプロセス

計画づくりの初期段階から住民、市内・県内関係団体、庁内関係課等の意見を反映しながら進めるとともに、公民連携のパートナーとなる民間事業者へのサウンディング（意見聴取）等により実現可能性の観点からも検討するなど、幅広い理解の醸成と実効性の確保に配慮しました。



## 第2章 うるま市及び勝連・与那城地域の概要

### 1. うるま市の概要

#### (1) 位置・地理

総面積 87.02 km<sup>2</sup>（国土地理院、令和4年4月）を有するうるま市は、沖縄本島中部の東海岸に位置し、県庁所在地である那覇市から北東へ約 25km の距離にあります。東側は金武湾、南側は中城湾に接しています。

丘陵地の広がる石川地域、金武湾・中城湾の両湾に接する具志川地域、勝連半島に加え、東方海上には有人・無人の10の島々があり、伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島・藪地島の5島は与那城地域との海中道路や、架橋によって結ばれています。

また、沖縄本島中部において唯一の有人離島である津堅島があります。気候は亜熱帯海洋性気候に属し、年間を通じ温暖な暮らしやすい気候となっています。

うるま市の位置



出所：沖縄県ホームページ「各市町村の位置と島名」を基に作成

## （２）歴史・沿革

うるま市は、平成 17 年 4 月 1 日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町の 4 市町が合併して誕生しました。市名の「うるま」は“サンゴの島”を意味する沖縄の美称です。

具志川市は、約 4,000 年前に生活が営まれた痕跡がある古い歴史を持ち、琉球最古の歌謡集『おもろさうし』にも「くしかわ」と記述が残っています。豊富な水資源と肥沃で広い土地に恵まれており、かつてサトウキビの生産量は沖縄一を誇っていました。太平洋戦争後は、琉球大学の前身である沖縄文教学学校や、沖縄外国語学校、農林学校などが次々と創設され、沖縄の文教中心地として発展してきました。

石川市は、昭和初期までは現在の沖縄市を中心とする行政区に含まれる農村集落でした。終戦直後に地方行政措置要綱に基づき石川市が誕生し、戦中戦後において、米軍により設置された避難民収容所や琉球政府の前身である沖縄諮詢会、更には民政府が設置され、沖縄政治・経済の中心地として発展しました。

勝連町は、『おもろさうし』の中で「きむたか」（心豊か・気高い）と称され、大和の京や鎌倉に例えられるほど繁栄がうたわれました。特に 12～13 世紀築城とされる勝連城周辺は、城主阿麻和利の時代に最盛期を迎えました。勝連城跡は、平成 12 年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つとして、世界文化遺産に登録されました。

与那城町は、約 2,500 年前の縄文貝塚時代中期の最大段丘集落跡といわれる「シヌグ堂遺跡」があるように歴史は古く、西原間切から平田間切、与那城間切と改名を重ね、沖縄県島嶼町村制の施行など歴史的な変動を経験しながら発展してきました。また、海中道路（昭和 47 年）や伊計大橋（昭和 57 年）、藪地大橋（昭和 60 年）の完成により島々の交通の便が飛躍的に向上しました。

このように個性豊かな 4 市町は、歴史的にも地理的にもつながりが強く、生活・経済・文化面において一体的な日常生活圏を構築していました。平成 13 年 12 月より合併任意協議会が設置され、平成 16 年 9 月に 4 市町議会において合併関連議案を議決、県と国への申請・届出を経てうるま市が誕生することとなりました。

## 2. 勝連・与那城地域の概要

### (1) 位置・地理

勝連・与那城地域は、勝連半島と有人・無人の島々から成り立っています。勝連半島と5つの島（藪地島、平安座島、宮城島、伊計島、浜比嘉島）は海中道路や橋によって結ばれています。勝連地域は勝連半島の南部分と浜比嘉島・津堅島の有人島及び浮原島・南浮原島の無人島で、与那城地域は勝連半島の北部分と藪地島・平安座島・宮城島・伊計島で構成されています。

那覇空港から主要観光地である勝連城跡までの所要時間は車で60分ほどであり、沖縄自動車道を経由し沖縄北インターチェンジよりアクセスが可能です。

金武湾と中城湾の両湾に面した美しい海岸・島々や、斜面地や丘陵地が多く起伏に富んだ風景がみられます。沖縄有数の観光地であり、世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、沖縄最古の伝統を守る平敷屋エイサー、海中道路等を見に人々が訪れます。

勝連地域は、もずく生産量が全国一位であり、沖縄県内のもずく生産の約4割を占めています。

### (2) 歴史・沿革

勝連地域には先史遺跡が51か所確認されており、半島の南側や津堅島海岸部に多く点在する他、浜比嘉島の洞穴内遺跡がみられます。

15世紀の勝連按司（領主・諸侯の呼称）10代目の阿麻和利の時代には、勝連城周辺は最盛期を迎え、徳之島や奄美大島、さらに中国・朝鮮半島との交流も盛んに行われていました。その繁栄は、沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」の中でも大和の京や鎌倉に例えて詠われています。

地名は、琉球王国時代には勝連間切と呼ばれていましたが、明治40年には日本政府による島嶼町村制に基づき勝連村へ、昭和55年には町制施行に伴い勝連町と名称の変遷がありました。

与那城地域では、約9,000～10,000年前の藪地洞穴遺跡（藪地島）や約2,500年前の集落が形成された仲原遺跡（伊計島）など、島しょ部分にも古くから人が居住した痕跡が存在します。与那城地域は、琉球王国の国王・尚寧王の父親である与那城王子・尚懿の拝領地であったとも伝えられています。

17世紀までは勝連間切に属していましたが、その後、西原間切から平田間切、与那城間切と改名を重ね、沖縄県島嶼町村制の施行など歴史的な変動を経験しながら発展してきました。

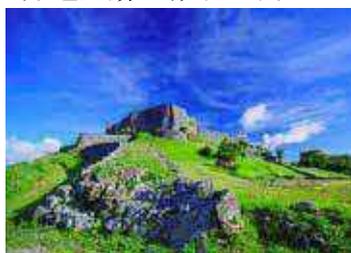
昭和47年に海中道路、昭和57年に伊計大橋が完成し、島しょへの交通利便性が飛躍的に向上しました。平成9年には浜比嘉大橋が開通し、平安座島と勝連地域に属する浜比嘉島とが結ばれました。

両地域は平成17年4月1日に具志川市・石川市も合わせた4市町で合併をし、うるま市となりました。

### (3) 主な地域資源

#### ① 主要な観光資源

世界遺産勝連城跡や島しょ等の固有の文化・景観が多く残されています。



勝連城跡

出所：うるまいろ（一般社団法人 うるま市観光物産協会 公式WEB サイト）



平敷屋エイサー



伊計島

出所：うるまいろ（一般社団法人 うるま市観光物産協会 公式WEB サイト）

#### ② 自然の風景地

金武湾、中城湾の美しい砂浜や、丘陵地を中心にまとまった緑地等の豊かな自然、地域のシンボルとして大切に守られている巨木・古木などがみられます。



トゥマイ浜



果報バンタ



シヌグ堂

#### ③ 史跡・遺跡

先史・グスク時代の遺跡や、太平洋戦争後の傷跡を今に伝える史跡が残っています。



仲原遺跡



比嘉グスク



与那城監視哨跡

#### ④その他

勝連半島と島しょを結ぶ海中道路や橋梁の特徴的な景観がみられます。瓦葺き屋根を用いた住居や、グスク時代をモチーフにした舞台など伝統が生活と密着しています。



海中道路



現代版組踊  
「肝高の阿麻和利」



比嘉集落

出所：うるまいろ（一般社団法人 うるま市観光物産協会 公式WEBサイト）

### 第3章 うるま市及び勝連・与那城地域の現状分析

#### 1. 人口・産業等

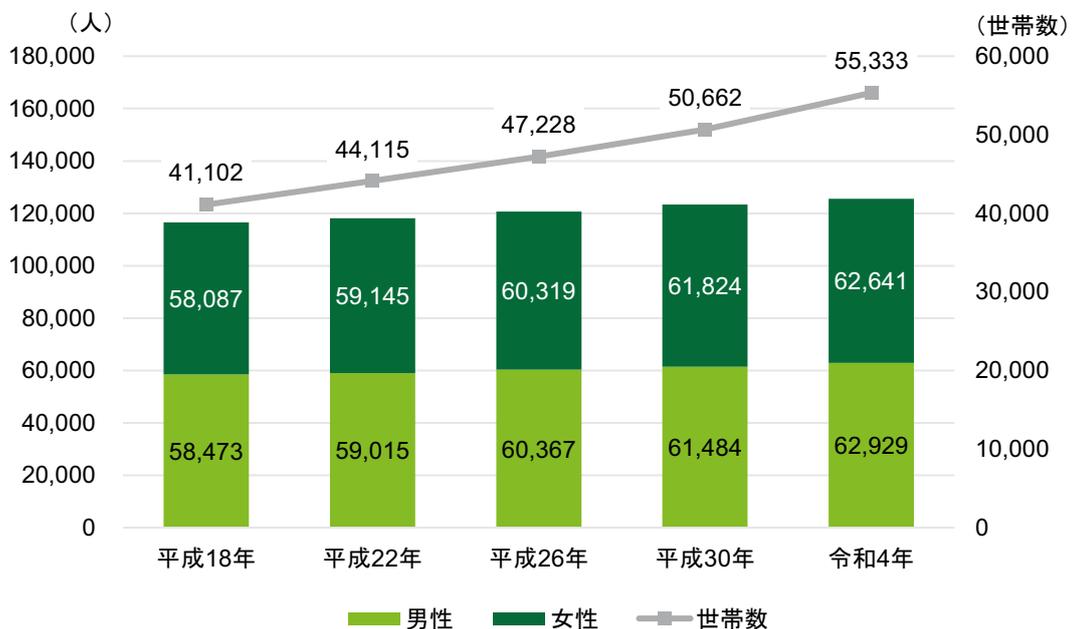
##### (1) 人口

##### ①人口・世帯数

市全体の人口は、令和4年3月時点で125,570人であり、平成18年から令和4年まで微増傾向にあります。男女比率は概ね半々で推移しています。

世帯数は令和4年3月時点で55,333世帯であり、増加傾向にあります。一方、1世帯あたりの平均構成人員は2.27人であり、縮小傾向で推移していることから、単身世帯の増加や核家族化の進行がうかがえます。

うるま市の人口と世帯数の推移（各年3月時点数値）



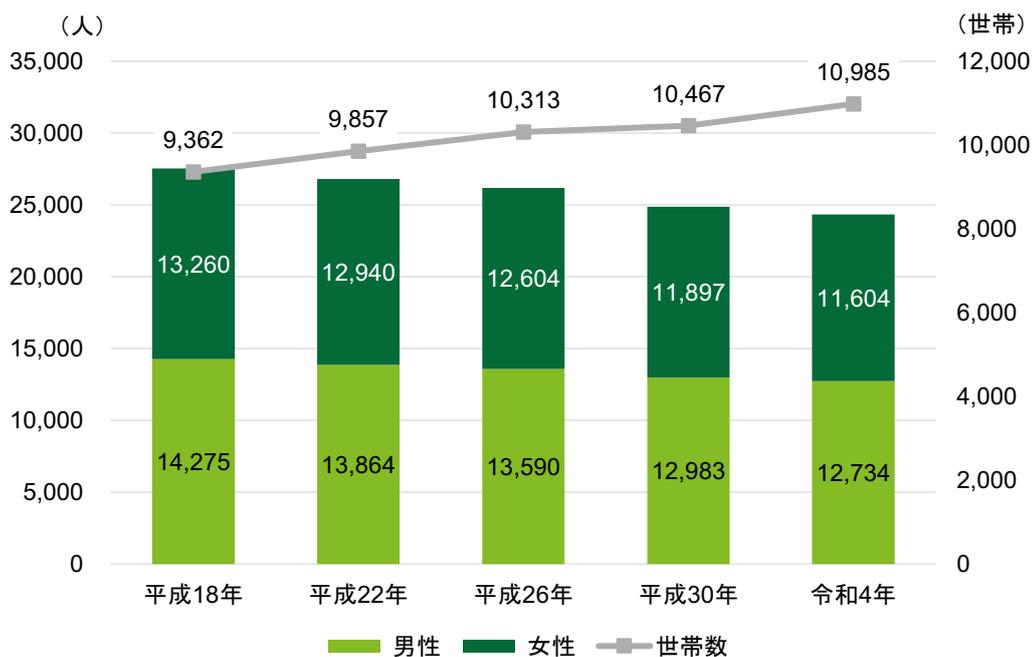
		平成18年	平成22年	平成26年	平成30年	令和4年
人口	全体	116,560	118,160	120,686	123,308	125,570
	女性	58,473	59,015	60,367	61,484	62,929
	男性	58,087	59,145	60,319	61,824	62,641
世帯数		41,102	44,115	47,228	50,662	55,333
世帯構成人員		2.84	2.68	2.56	2.43	2.27

出所：うるま市ホームページ「旧市町村単位での人口及び世帯数」

勝連・与那城地域に目を向けると、令和4年3月時点の人口は24,338人であり、市の総人口の約19%にあたります。平成18年から令和4年まで、徐々に減少しています。男女比率は男性がやや多くなっています。

世帯数は、令和4年3月時点で10,985世帯であり、平成18年から令和4年の間、微増傾向にあります。一方、1世帯あたりの平均構成人員は2.21人であり、減少傾向にあります。

勝連・与那城地域の人口と世帯数の推移（各年3月時点）



		平成18年	平成22年	平成26年	平成30年	令和4年
人口	全体	27,517	26,806	26,194	24,880	24,338
	男性	14,275	13,864	13,590	12,983	12,734
	女性	13,260	12,940	12,604	11,897	11,604
世帯数		9,362	9,857	10,313	10,467	10,985
世帯構成人員		2.93	2.71	2.54	2.37	2.21

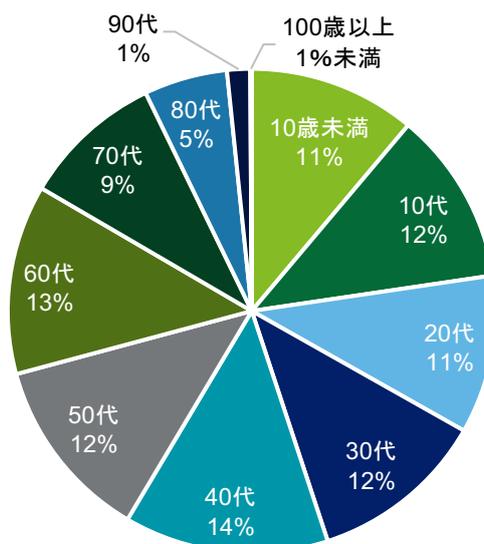
出所：うるま市ホームページ「旧市町村単位での人口及び世帯数」

## ②年齢別人口構成

市全体の令和4年3月時点の年齢別人口構成は、40代が14%と最も大きい割合を占めていますが、10歳未満から70代までは各年代10%前後であり大きな違いは見られません。

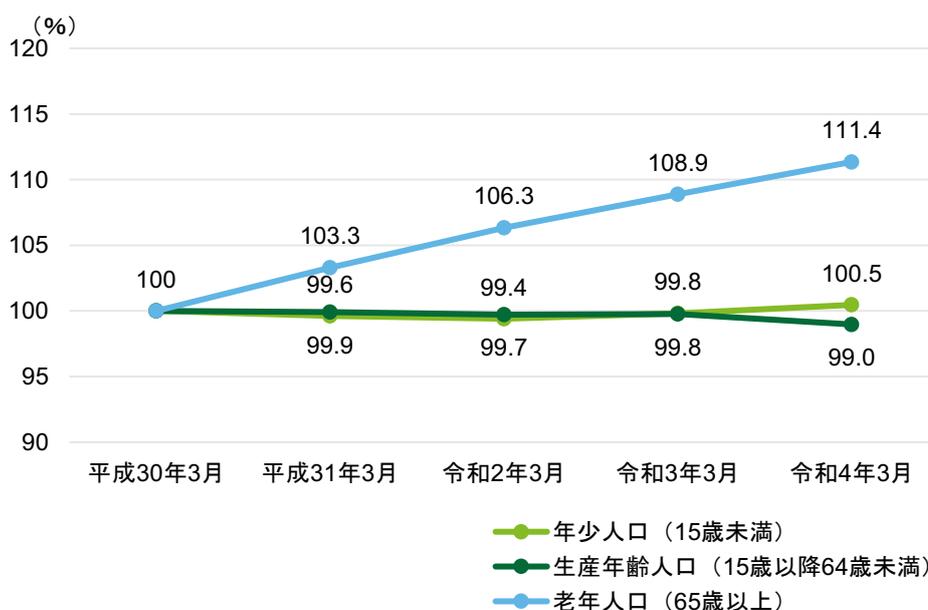
年齢3区分別人口の推移をみると、平成30年から令和4年の間、年少人口及び生産年齢人口はほぼ横ばいの一方、老年人口は増加しています。

うるま市年齢別人口構成（令和4年3月）



出所：うるま市ホームページ「行政区別年齢別統計表」

うるま市年齢3区分別人口の推移（平成30年3月を100とした指数）

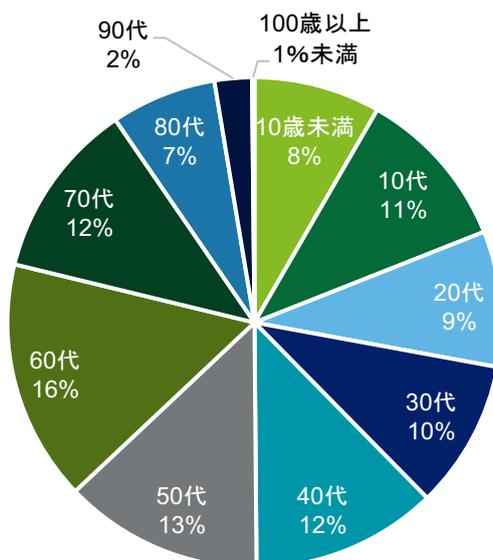


出所：うるま市ホームページ「行政区別年齢別統計表」

勝連・与那城地域の令和4年3月時点の人口構成は、60代が最も割合が大きく16%であり、次いで50代が13%、40代・70代が12%と、市全体と比較して高年齢の比率がやや大きくなっています。

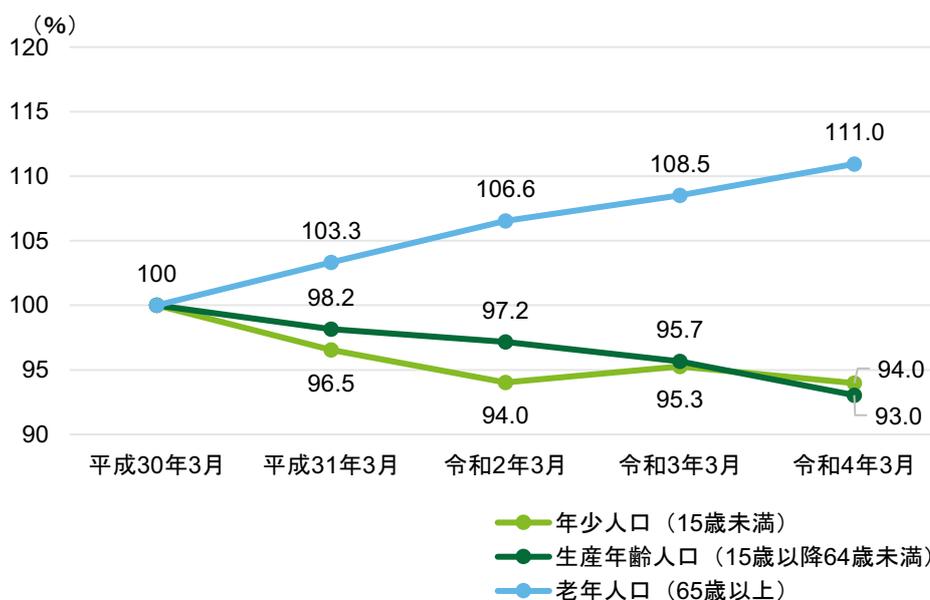
年齢3区分別人口の推移では、平成30年から令和4年の間、年少人口及び生産年齢人口は減少傾向であり、老年人口は市全体と同様、増加傾向にあります。

勝連・与那城地域 年齢別人口構成（令和4年3月）



出所：うるま市ホームページ「行政区別年齢別統計表」

勝連・与那城地域年齢3区分別人口の推移（平成30年3月を100とした指数）



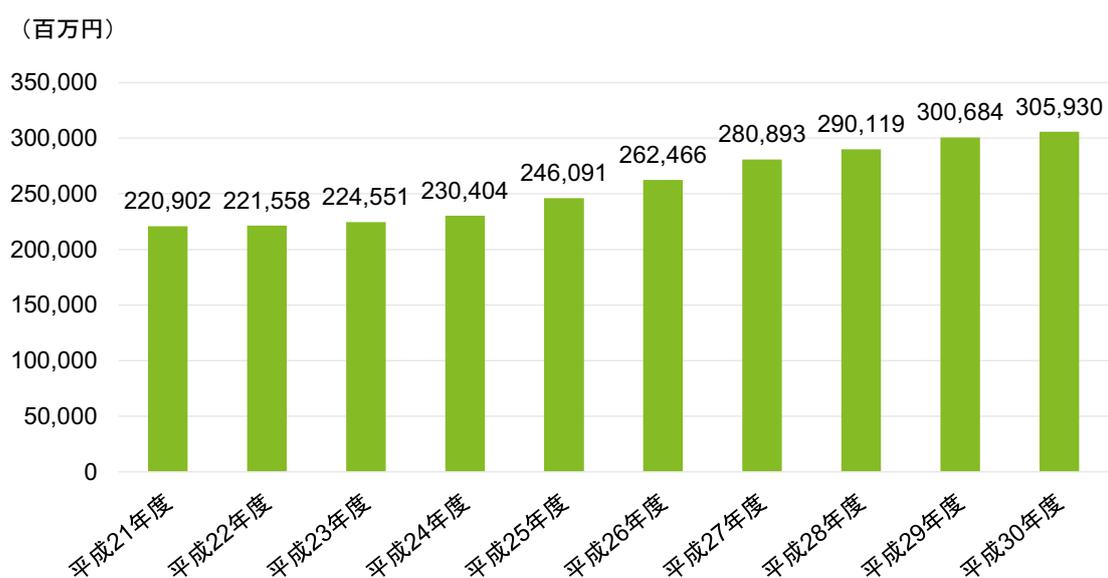
出所：うるま市ホームページ「行政区別年齢別統計表」

## (2) 産業<sup>2</sup>

### ①市内総生産額<sup>3</sup>

沖縄県市町村民所得（平成 30 年度）によると、平成 30 年度の市内総生産額は約 3,059 億円であり、平成 21 年度以降、年々増加しています。増加割合は年ごとに若干の差異がみられますが、平成 21 年度から平成 30 年度まで緩やかな増加傾向にあります。

市内総生産額の推移（平成 30 年度）



出所：沖縄県企画部統計課「沖縄県市町村民所得（平成 30 年度）」

<sup>2</sup> うるま市「第 2 次うるま市産業振興計画」（令和 4 年 3 月）を基に整理している。

<sup>3</sup> 市内総生産額とは、1 年間に市内で行われた各経済活動部門の生産活動によって新たに生み出された付加価値の貨幣評価額をいう。

市全体の平成 30 年度産業区分別生産額割合をみると、第 3 次産業が最も大きく 65.5%であり、次いで第 2 次産業が 33.4%、第 1 次産業が 1.1%です。

産業別割合をみると、「建設業」が最大であり、次いで「不動産業」「電気・ガス・水道・廃棄物処理業」となっています。

平成 26 年度からの増減率をみると、平成 30 年度の総生産額拡大に最も寄与した産業は「建設業」です。

うるま市の産業区分別生産額割合（平成 30 年度）

	2018(平成30)年		2014(平成26)年→2018(平成30)年		
	実額 (百万円)	構成比 (%)	増減率 (%)	成長寄与度	
第1次産業	農業	2,263	0.7	11.0	-0.1
	林業	0	0.0	00.0	0.0
	水産業	1,118	0.4	17.2	0.1
第2次産業	鉱業	150	0.0	17.1	0.0
	製造業	24,538	8.0	16.5	1.3
	電気・ガス・水道・廃棄物処理業	36,477	11.9	2.0	3.8
	建設業	41,092	13.4	5.6	7.5
	卸売・小売業	21,138	6.9	-0.3	0.0
	運輸・郵便業	6,997	2.3	1.6	0.5
	宿泊・飲食サービス業	7,491	2.4	0.2	0.3
第3次産業	情報通信業	18,309	6.0	6.3	0.4
	金融・保険業	5,026	1.6	2.6	0.2
	不動産業	38,771	12.7	3.5	1.7
	専門・科学技術、業務支援サービス業	21,219	6.9	8.4	1.3
	公務	19,111	6.2	5.2	0.3
	教育	14,908	4.9	5.3	0.3
	保健衛生・社会事業	29,922	9.8	3.0	1.3
	その他のサービス業	17,400	5.7	3.4	0.2
	合計 1)	305,930	100.0	6.8	16.8

※増減率 = 増減額 ÷ 比較年度額  
 ※成長寄与度 = 構成比 × 増加率 ÷ 100

1) 輸入品に課される税・課税等は含まない

出所：沖縄県企画部統計課「沖縄県市町村民所得（平成 30 年度）」

（図表はうるま市「第 2 次うるま市産業振興計画」（令和 4 年 3 月）から引用）

## ②産業別事業所数及び従業者数

うるま市における平成 28 年の事業所数は 4,368 事業所です。産業別構成比をみると、「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「不動産業、物品賃貸業」の順に大きくなっています。また、平成 24 年との比較では、特に「医療、福祉」の事業所数が大きく増加しています。

平成 28 年の従業者数は 37,062 人です。産業別構成比をみると「卸売業、小売業」「医療、福祉」「サービス業（他に類さないもの）」の割合が大きくなっています。平成 24 年との比較では、特に「漁業」「鉱業、採石業、砂利採取業」において従業者数の大きな増加がみられます。

うるま市の産業別事業所数及び従業者数（平成 28 年）

<うるま市>	平成28(2016)年				平成24(2012)年→平成28(2016)年	
	事業所数	従業者数	事業所構成比	従業者構成比	事業所数増減率	従業者数増減率
A～S 全産業	4,368	37,062	100.0	100.0	-1.3	17.3
A 農業、林業	20	193	0.5	0.5	5.3	-14.6
B 漁業	3	12	0.1	0.0	0.0	1100.0
C 鉱業、採石業、砂利採取業	1	21	0.0	0.1	75.0	950.0
D 建設業	318	3,382	7.3	9.1	-5.6	5.3
E 製造業	266	3,639	6.1	9.8	7.3	4.8
F 電気・ガス・熱供給・水道業	5	259	0.1	0.7	0.0	-8.2
G 情報通信業	27	620	0.6	1.7	-6.9	2.1
H 運輸業、郵便業	73	1,038	1.7	2.8	14.1	0.2
I 卸売業、小売業	1,005	8,010	23.0	21.6	-7.2	3.5
J 金融業、保険業	45	477	1.0	1.3	12.5	10.7
K 不動産業、物品賃貸業	476	1,004	10.9	2.7	-7.0	-6.7
L 学術研究、専門・技術サービス業	176	1,318	4.0	3.6	8.0	43.6
M 宿泊業、飲食サービス業	649	3,412	14.9	9.2	1.6	-2.1
N 生活関連サービス業、娯楽業	421	1,946	9.6	5.3	-1.6	8.1
O 教育、学習支援業	176	763	4.0	2.1	-7.9	-9.2
P 医療、福祉	358	5,862	8.2	15.8	7.9	3.0
Q 複合サービス事業	27	353	0.6	1.0	3.8	1.4
R サービス業（他に分類されないもの）	322	4,753	7.4	12.8	-3.3	55.2

出所：総務省「経済センサス-基礎調査」、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」  
 （図表はうるま市「第2次うるま市産業振興計画」（令和4年3月）から引用）

平成 28 年の従業者規模別事業所の構成比をみると、「1～4 人」が 62.3%、次いで「5～9 人」が 18.1%、「10～19 人」が 10.5%であり、90%超が従業員 20 人未満の事業所です。

平成 24 年との比較では、従業者数の多い事業所ほど事業所数が増加しており、特に 30 人以上の事業者数が大きく増加しています。

うるま市の従業者規模別事業所数（平成 28 年）

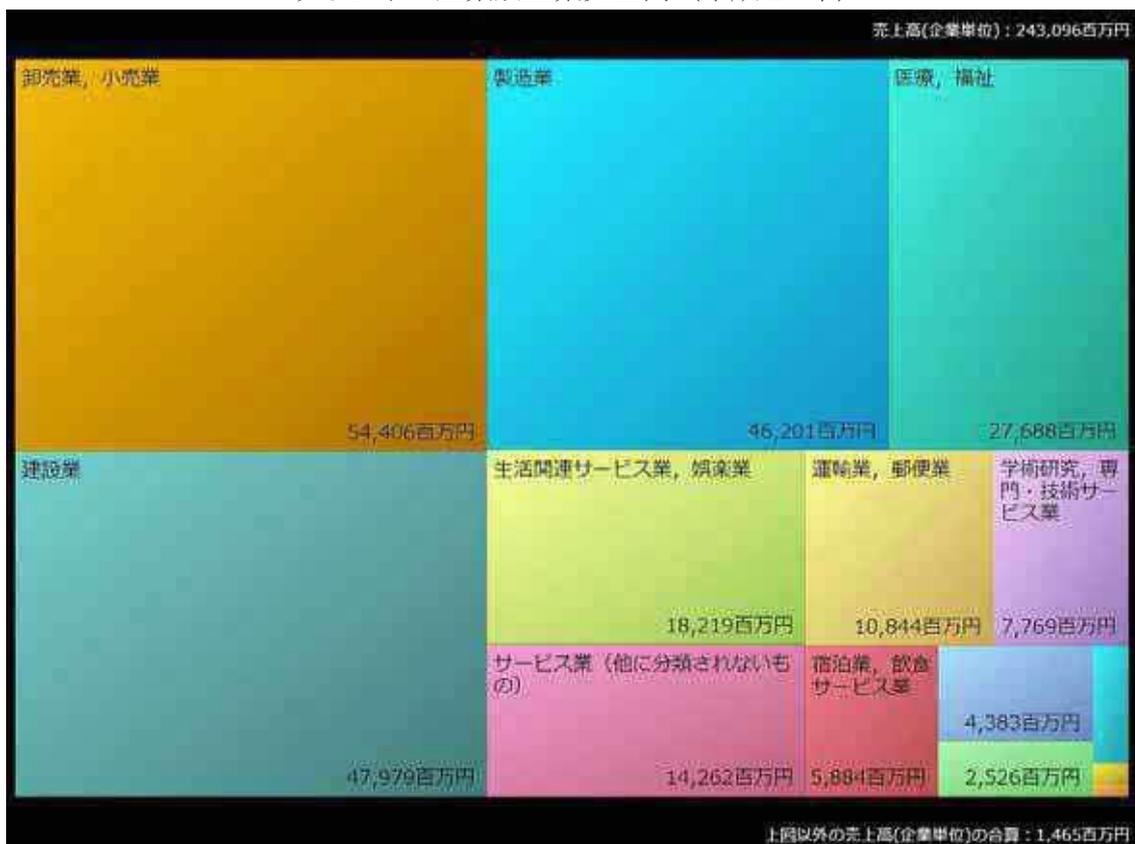
<うるま市>	平成28(2016)年				平成24(2012)年→平成28(2016)年	
	事業所数	従業者数	事業所構成比	従業者構成比	事業所数増減率	従業者数増減率
総数	4,568	38,821	100.0	100.0	3.2	22.9
1～4人	2,848	5,370	62.3	13.8	-2.6	-4.2
5～9人	827	5,412	18.1	13.9	10.0	10.7
10～19人	479	6,408	10.5	16.5	11.7	12.1
20～29人	162	3,906	3.5	10.1	17.4	18.8
30～49人	117	4,319	2.6	11.1	36.0	35.5
50～99人	87	5,913	1.9	15.2	33.8	39.6
100人以上	34	7,493	0.7	19.3	41.7	60.6

出所：総務省・経済産業省「経済センサス」  
 （図表はうるま市「第2次うるま市産業振興計画」（令和4年3月）から引用）

### ③企業の売上高

平成 28 年における第 2 次・第 3 次産業に従事する市内企業の売上高合計は、243,096 百万円です。産業別で見ると、最も売上高が高いのは「卸売業、小売業」で 54,406 百万円であり、次いで「建設業」の 47,979 百万円、「製造業」の 46,201 百万円となっています。

うるま市の産業別企業売上高（平成 28 年）



出所：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」  
 （地域経済分析システム（RESAS）を活用）

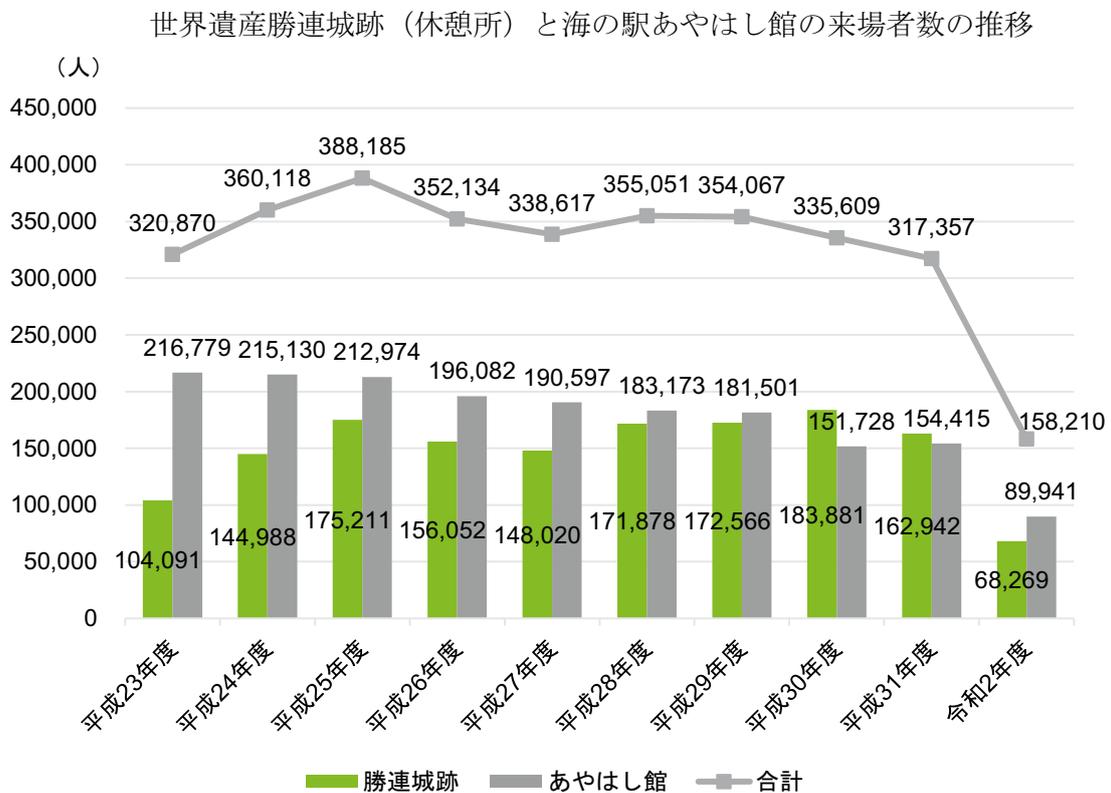
### (3) 観光

#### ①観光客数

第2次うるま市観光振興ビジョン（平成29年3月）によると、平成27年度にうるま市を訪れた観光客数は延べ約174万人規模と推計されています。

#### ②観光地への来場者数の推移

うるま市の中でも多くの観光客が来訪し、継続的に来場者数を集計している「世界遺産勝連城跡（休憩所）」と「海の駅あやはし館」の来場者数は、新型コロナウイルスの蔓延前である平成30年度は両施設合計で335,609人、蔓延後である直近の令和2年度は158,210人です。新型コロナウイルスの影響により、来場者数が半数以下となっていることが確認できます。また、平成30年度以前の推移に着目すると、勝連城跡は増減を繰り返しながらも徐々に来場者数が増加している一方、あやはし館は減少傾向にあります。



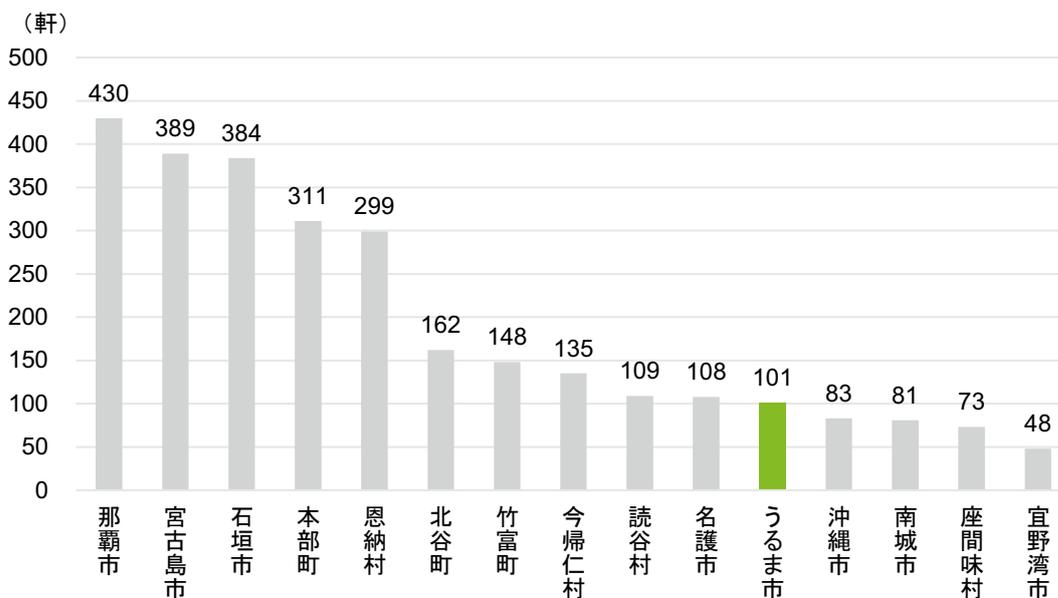
※あやはし館は平成28年度より開館時間が9時から17時半迄に変更。（変更前は7時から22時迄）

出所：うるま市ホームページ「うるま市観光の推移」

### ③宿泊施設数と宿泊収容人数

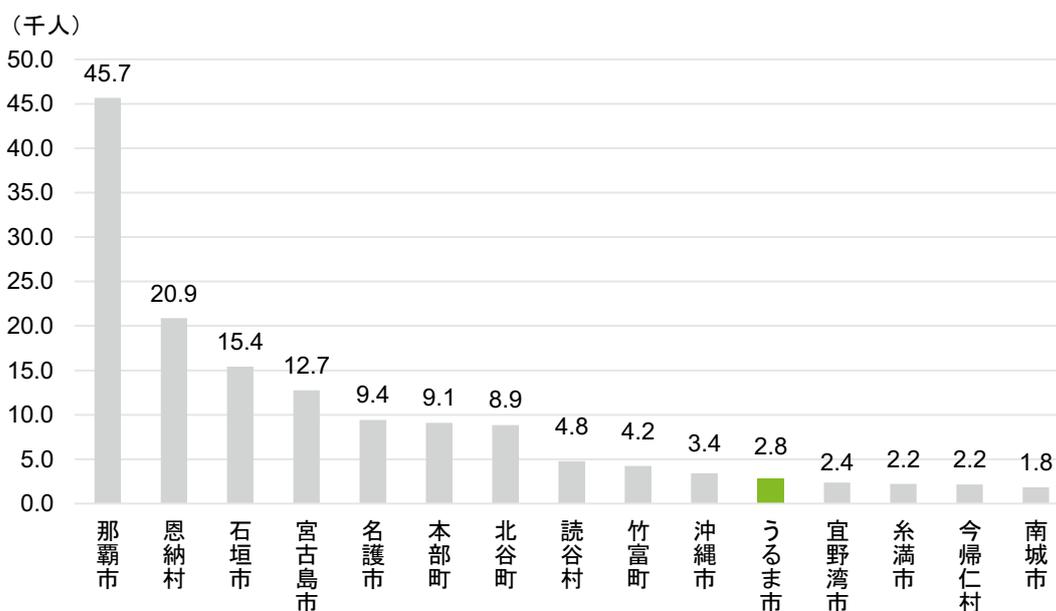
沖縄県観光要覧（令和2年度版）によると、令和2年度における市内の宿泊施設数は101軒、宿泊収容人数は2,834人です。沖縄県の41市町村の中では、宿泊施設数、収容人数ともに11番目です。

沖縄県上位15市町村の宿泊施設数（令和2年度）



出所：沖縄県観光要覧（令和2年度版）

沖縄県上位15市町村の宿泊収容人数（令和2年度）

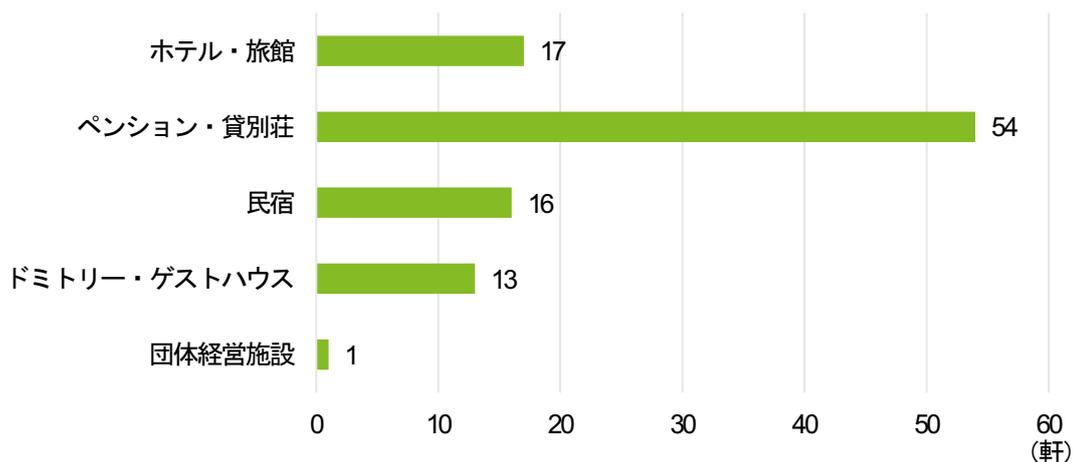


出所：沖縄県観光要覧（令和2年度版）

宿泊施設数の内訳は、ホテル・旅館が 17 軒、ペンション・貸別荘が 54 件、民宿が 16 軒、ドミトリー・ゲストハウスが 13 軒と、ペンション・貸別荘の施設数が多く、団体客対応の宿泊施設が少ない状況です。

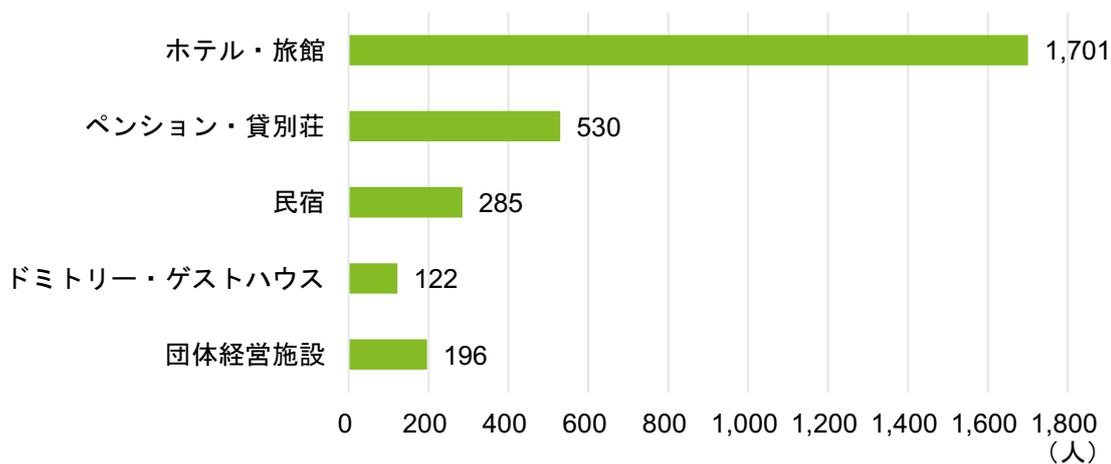
宿泊収容人数の内訳は、ホテル・旅館が 1,701 人、民宿が 285 人、ペンション・貸別荘が 530 人、ドミトリー・ゲストハウスが 122 人です。

市内宿泊施設種別毎の軒数（令和 2 年度）



出所：沖縄県 令和 2 年度版観光要覧

市内宿泊施設種別毎の収容人数（令和 2 年度）



出所：沖縄県 令和 2 年度版観光要覧

## 2. 既存計画における位置づけ

### (1) 第2次うるま市都市計画マスタープラン（令和5年3月）

#### ①計画の位置づけ

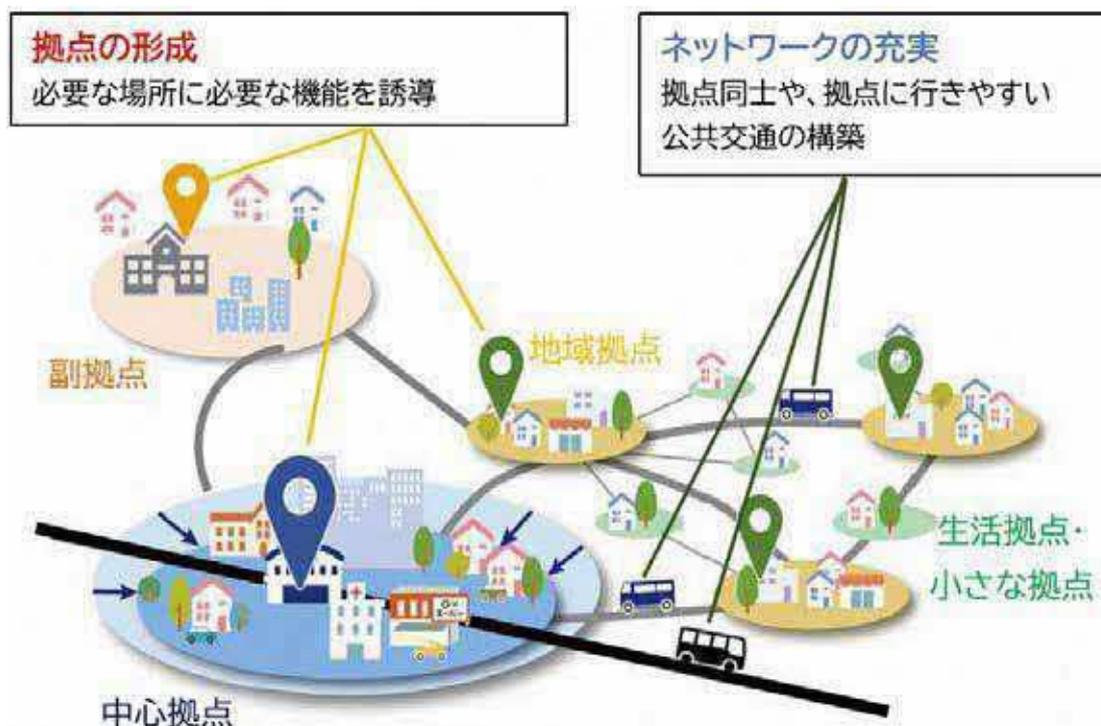
都市づくりのビジョンの統一や一体性の確保を図ることから、沖縄県が策定する「中部広域都市計画『都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』」や、うるま市が策定する「うるま市総合計画」などの上位計画に即して定めています。

#### ②都市づくりの将来像と基本目標

うるま市では、まちの将来像として「人・自然・歴史文化が調和し、特色ある拠点がネットワークで結ばれ都市の豊かさが次世代へ受け継がれるまち」の実現を掲げています。各拠点の魅力が調和し、交通ネットワークによって市全体が結ばれる都市構造を目指すこととしています。また、拠点内では生活に必要な機能の集積、住環境と産業・観光振興との調和や美しい自然環境の保全を行った上で、その豊かさを次世代へ継承できるような、質の高い持続可能な多極連携・集約型の都市づくりを目指すこととしています。

この将来像を実現するため、「特色ある拠点が核となり、連携・集約した持続可能なまち」、「住環境・産業・観光が調和し、人々が交流できるまち」、「うるまらしい景観・自然・文化伝統が継承されるまち」、「安全・安心に住み続けられるまち」、「将来を見据えた都市のマネジメント」及び「様々な主体が相互に補完・協力しあうまち」の6つの基本目標を定めています。

#### 多極連携・集約型都市（イメージ）



出所：国土交通省「立地適正化計画作成の手引き」等のイメージを基にうるま市の特性を踏まえ加工  
(図表はうるま市「第2次うるま市都市計画マスタープラン」から引用)

### ③地域別方針

全体構想で示した市全体の都市づくりの目標を踏まえた地域単位のまちづくりの方針を示すため、地域ごとの特性や課題に応じた将来像や基本方針を設定しています。同計画では市を計 7 つの地域に区分しており、勝連・与那城地域は「⑥うるま市東部地域」、「⑦うるま市島しょ地域」の 2 地域から構成されています。

東部地域では、地域の将来像として「豊かな自然環境を守りながら、勝連城跡などの歴史伝統文化を活用した賑わいのあるまち」を掲げており、地域づくりの基本方針として「地域拠点の形成と地域の利便性の向上を目指す」、「歴史・文化や自然が持つ観光資源と住環境が共存した、うるおいと賑わいのあるまちの形成」、「世界遺産勝連城跡周辺のまちづくりから生まれる新たな交流と発展の創出」の 3 つを定めています。

島しょ地域では、地域の将来像として「多様な資源を活用した地域振興による賑わい魅力ある島々」を掲げており、地域づくりの基本方針として「交流人口・関係人口の増加」、「自然・歴史・文化的景観を活用した魅力ある観光拠点の形成」、「地域資源を活用した移住・定住の促進」、「地域振興に結びつく交通ネットワークの構築」の 4 つを定めています。

地域区分図



出所：うるま市「第 2 次うるま市都市計画マスタープラン」

## (2) 第2次うるま市観光振興ビジョン（令和5年3月）

### ①計画の位置づけ

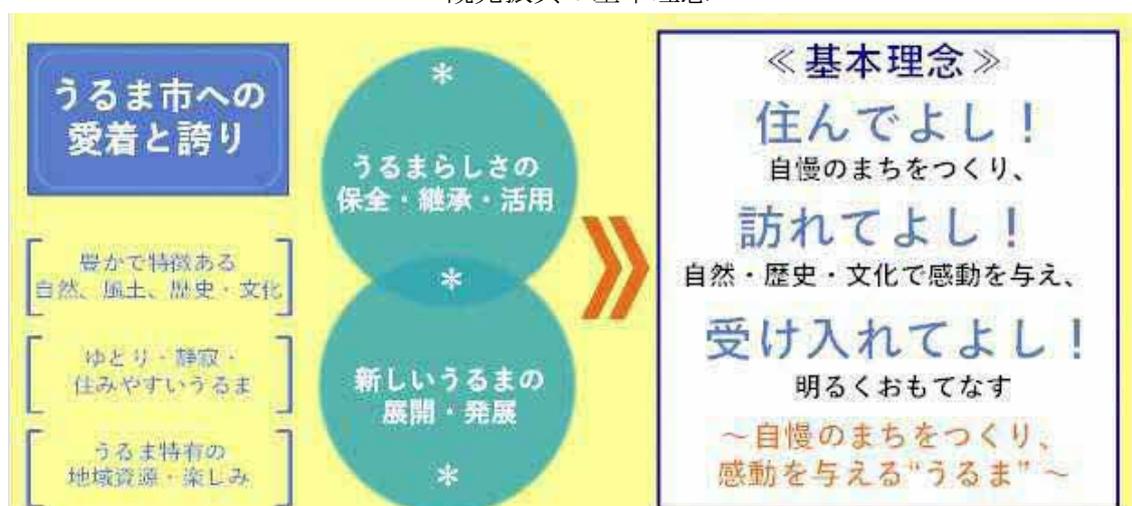
上位計画となる「第2次うるま市総合計画（後期基本計画）」（令和3年度策定）、  
「第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2年度策定）」、「第2次  
うるま市産業振興計画（令和3年度策定）」における観光関連施策の方向性や目標  
値との整合を図り策定しています。

また、国の「観光立国推進基本計画」（平成28年度）、「明日の日本を支える観  
光ビジョン」（平成28年度）や沖縄県の「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」（令  
和4年度）、「第6次沖縄県観光振興基本計画」（令和4年度）等の観光振興の方  
向性を踏まえて取りまとめています。

### ②観光振興の基本理念

これからの観光振興の方向性として、地域の活性化と持続的な観光の発展に向け  
て、地域の方々をはじめとする多様な関係者と連携して取り組んでいくとともに、  
うるま市の地域資源が持つ固有の特性を活かした様々な体験や滞在時間を提供する  
こととしています。また、基本理念として「住んでよし！自慢のまちをつくり、訪  
れてよし！自然・歴史・文化で感動を与え、受け入れてよし！明るくおもてなす～  
自慢のまちをつくり、感動を与える“うるま”～」を掲げ、推進していくこととし  
ています。

### 観光振興の基本理念



出所：うるま市「第2次うるま市観光振興ビジョン」

### ③観光振興の基本方針

前述の基本理念を踏まえ、「うるま市の統一イメージ形成」、「美しい観光まちづくりと観光機能の充実」、「地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり」、「観光推進体制の構築とマーケティングの推進」、「受入体制整備とおもてなしの充実」の5つの基本方針を設定しています。

#### 5つの基本方針

<b>基本方針1</b>	<b>うるま市の統一イメージ形成</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>■うるま市の統一したイメージ形成に向けて、うるま市の中でも強みのある地域資源を核として、資源磨きと活用を図ることで「うるまブランドの確立」を目指します。</li><li>■これまで構築してきたホームページ、SNS等の各種メディアについて管理方法を見直すとともにコンセプトと誘客ターゲットを明確にした効果的な情報発信に取り組みます。</li><li>■ブランドの核となるうるま市の自然、文化などの地域資源の魅力向上を図ります。</li></ul>	
<b>基本方針2</b>	<b>美しい観光まちづくりと観光機能の充実</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>■うるま市の自然や景観、施設等の地域資源について、関係者と連携しながら保全や整備を進め観光機能を図ります。</li><li>■多くの観光客が訪れる島しょ地域では地域住民の生活の妨げとならないよう観光地マネジメントの構築を図ります。</li><li>■勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺等の観光の拠点となる施設については公民連携を視野にさらなる魅力創出や機能強化を推進します。</li></ul>	
<b>基本方針3</b>	<b>地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>■観光客のうるま市内の消費額を高めるために着地型体験プログラムや多様なツーリズムを展開し、セグメントごとの周遊観光を促進します。</li><li>■うるま市の課題である市内宿泊日数の延伸に向けては既存宿泊施設との連携や民泊の推進、新規宿泊施設の整備を推進します。</li><li>■イベント等を活用した更なる誘客促進を推進します。</li><li>■一年を通した観光の平準化を図るため、スポーツツーリズム及びワーケーションを推進します。</li></ul>	
<b>基本方針4</b>	<b>観光推進体制の構築とマーケティングの推進</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>■うるま市の観光振興を推進するにあたって行政、観光物産協会、観光関連事業者、関連団体との強固な推進体制を構築します。</li><li>■東海岸地域や隣接する恩納村などの広域連携を図り、相互に補完しあう連携体制を構築します。</li><li>■うるま市の観光実態を把握するため継続的な基礎調査の実施と分析を推進します。</li><li>■分析結果をもとに誘客ターゲットを明確化し、魅力ある多様な地域資源の効果的な情報発信に活用します。</li></ul>	
<b>基本方針5</b>	<b>受入体制整備とおもてなしの充実</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>■外国人や高齢者、障がい者など多様な観光客の受け入れに向けた体制整備を図るとともに観光人材の育成・確保を推進します。</li><li>■市内アクセスや市内周遊等の移動利便性の向上や市内観光関連施設の整備、観光危機管理体制を強固にし受入体制の充実を図ります。</li><li>■市民が地域に誇りと愛着を持ち、おもてなしの心を醸成します。</li></ul>	

出所：うるま市「第2次うるま市観光振興ビジョン」

#### ④施策体系及び重要プロジェクト

今後 5 年の観光振興に向けた基本方針、基本施策、展開施策を整理しています。特に「基本施策 1-2. 地域資源の保全と活用による魅力向上」、「基本施策 2-2. 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出」の 2 つの基本施策を重要プロジェクトとして、重点プロジェクト以外の 10 の取組を重点施策として位置づけています。

#### 施策体系及び重要プロジェクト



出所：うるま市「第2次うるま市観光振興ビジョン」

### ⑤勝連・与那城地域の取組方針

うるま市は地域ごとに地域資源や誘客施設を有しており、特性に応じた取組を進めていくことが重要であるため、同計画では石川地域、具志川地域、勝連・与那城地域の3地域の特性と取組方針を整理しています。

勝連・与那城地域では「勝連城跡や海中道路、島しょ地域などの保全と活用の両輪による誘客エリア」との方針を設定し、主な取組方針を取りまとめています。

### 勝連・与那城地域の取組方針

### 3. 勝連・与那城地域

～勝連城跡や海中道路、島しょ地域などの保全と活用の両輪による誘客エリア～

**■概要**

- ・勝連・与那城地域は、うるま市内を南東に伸びる勝連半島と8つの島から成り立っています。
- ・金武湾と中城湾の両湾に面した美しい海岸・島々や斜面地や丘陵地が多く起伏に富んだ風景がみられます。
- ・沖縄有数の観光地であり、世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、沖縄最古の伝統を守る平敷屋エイサー、海中道路等を見に人々が訪れます。
- ・勝連地域では、勝連城10代目城主「阿麻和利」の半生を描いた地元の小中高生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」という演劇舞台が20年以上受け継がれてきています。
- ・また、同地域は、もずく生産量が全国一位であり、沖縄県内のもずく生産の約4割を占めています。



**■主な地域資源**

歴史・文化	自然・景観	農水産物・特産品	誘客施設
<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝連城跡</li> <li>・仲原遺跡</li> <li>・肝高の阿麻和利</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海中道路</li> <li>・島々の景色 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もずく</li> <li>・小麦</li> <li>・塩、ビーグ</li> <li>・津堅にんじん など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまわりパーク</li> <li>・東照間商業等施設</li> <li>・あやはし館</li> <li>・ロードパーク など</li> </ul>

**■主な取組方針**

- ・勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全と活用による魅力向上を図ります。
- ・浜比嘉島などの島しょ地域については観光客の受入れにあたって地域住民の生活の妨げとならないよう適切な観光地マネジメントを推進します。
- ・同地域に広がる農地を活かした農業体験等の体験型観光メニューの推進を図ります。
- ・来訪割合が最も高い海中道路については、あやはし館とロードパークの機能強化と魅力創出に取り組めます。
- ・与那城庁舎周辺及び県道 37 号線については「勝連・与那城地域まちづくり推進計画」に基づき活用促進を図ります。
- ・浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū(ハマチュー)を活用したワーケーションの推進を図ります。
- ・肝高の阿麻和利を活かした観光体験プログラムの推進を図るとともに「きむたかホール」の機能強化による文化観光ネットワークの構築を行います。
- ・マリンスポーツプログラムや島しょ地域を活用した体験プログラムの開発支援を行います。
- ・「つむぐうるまプロジェクト」などの取組により、もずくや小麦、塩、ビーグなどの特産品のブランド化を図ります。
- ・世界遺産勝連城跡等の地域資源を活かした MICE の推進を図ります。

出所：うるま市「第2次うるま市観光振興ビジョン」

### (3) 第2次うるま市産業振興計画（令和4年3月）

#### ①計画の位置づけ

「第2次うるま市総合計画 基本構想 後期基本計画」を上位計画としつつ、市の関連計画や沖縄県の「新たな振興計画（素案）」と整合性を図り、現在取り組まれている各種施策等も参考にしつつ策定しています。

#### ②目指すべき将来像と基本方針

次世代を担う子どもたちがこれまで発展してきたうるま市産業を誇りに感じ、ともに発展させることを思い描く都市の構築を目指し、「次世代を担う子どもたちが誇れる産業都市～サステイナブルビジネスシティうるま～」を将来像として掲げています。また、目指すべき将来像を実現するため、次の通り基本方針を設定しています。

#### 産業振興の基本方針

基本方針1	<b>農水産物の高付加価値化と安定的な生産の促進</b> 施策1 生産力の向上及びイノベーションの支援 施策2 もろがる農水産業のためのマーケティングとブランディングの強化 施策3 農水産業を下支えする基盤整備の推進
基本方針2	<b>商工業の持続的成長の実現と未来に挑戦する次世代産業の創出</b> 施策1 地場産業(市内事業者)の活性化及び高度化 施策2 新事業・新商品開発の支援 施策3 カーボンニュートラルに関する取組みの推進
基本方針3	<b>地域の強みを活かした“うるまつーリズム”の形成</b> 施策1 地域における受入態勢の構築 施策2 “うるまつーリズム”の形成に向けた基地型プログラムの創出 施策3 PR・プロモーションの強化
基本方針4	<b>企業誘致の推進及び新たな産業拠点の整備</b> 施策1 うるま市の特性を生かした企業誘致の推進 施策2 新たな産業拠点の整備
基本方針5	<b>世界で活躍する人材の育成</b> 施策1 次世代を担う若者の人材育成 施策2 大人のキャリアアップやリカレント教育・リスキング教育の支援 施策3 産業人材の確保
機動的プロジェクト	<b>うるま市産業イノベーション・プラットフォームの形成</b> 施策1 うるま市産業イノベーション・プラットフォームの形成

出所：うるま市「第2次うるま市産業振興計画」

### ③産業振興施策

それぞれの基本方針の下に、産業振興施策と具体的な取組を設定しています。これらのうち、勝連・与那城地域に特に関連すると考えられる具体的な取組として、新たなエネルギー拠点化構想の検討、サイクルツーリズムの推進、勝連城跡を生かした文化ツーリズムの推進、新たなツーリズムの創出などが挙げられています。

産業振興施策と具体的な取組（勝連・与那城地域に特に関連するもの）

基本方針	施策	具体的な取組
基本方針 2 (商工業の持続的成長の実現と未来に挑戦する次世代産業の創出)	カーボンニュートラルに関する取組の推進	<p>&lt;新たなエネルギー拠点化構想の検討&gt; 市内には、平安座に位置する沖縄石油備蓄基地（沖縄石油基地・沖縄ターミナル）や石川、具志川火力発電所が立地しています。カーボンニュートラルの推進により、将来的には役割の見直しが検討されることが予想されます。将来の社会経済環境の変化を見据え、民間企業と連携し、再生エネルギー発電拠点、水素生産拠点、海洋再生エネルギー研究拠点など多面的な活用を検討します。</p>
基本方針 3 (地域の強みを活かした“うるまツーリズム”の形成)	“うるまツーリズム”の形成に向けた着地型プログラムの創出	<p>&lt;サイクルツーリズムの推進&gt; 市内には海中道路をはじめとするサイクリングに魅力的なコースがあります。安全で走りやすい自転車通行空間の整備、レンタサイクルステーションや店舗内駐輪スペースの確保、案内サインの設置などを推進し、国内外からの誘客を図ります。</p>
		<p>&lt;勝連城跡を生かした文化ツーリズムの推進&gt; 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である勝連城跡においては、令和 3（2021）年 10 月にあまわりパークが開館し、観光客の受入環境が整いました。勝連・与那城地域の全体的なまちづくり構想を作成し、勝連城跡及びあまわりパーク等を拠点とした文化ツーリズムを促進します。</p>
		<p>&lt;新たなツーリズムの創出&gt; ヌーリ川や石川岳、市内ビーチ、金武湾等の恵まれたアウトドア資源を活用し、沢下り、登山、洞窟探検、マリンスポーツなど本市の特性を活かした着地型プログラムを開発、推進します。また、海中道路周辺のロケーションを活かしたワーケーション事業の展開を推進します。</p>

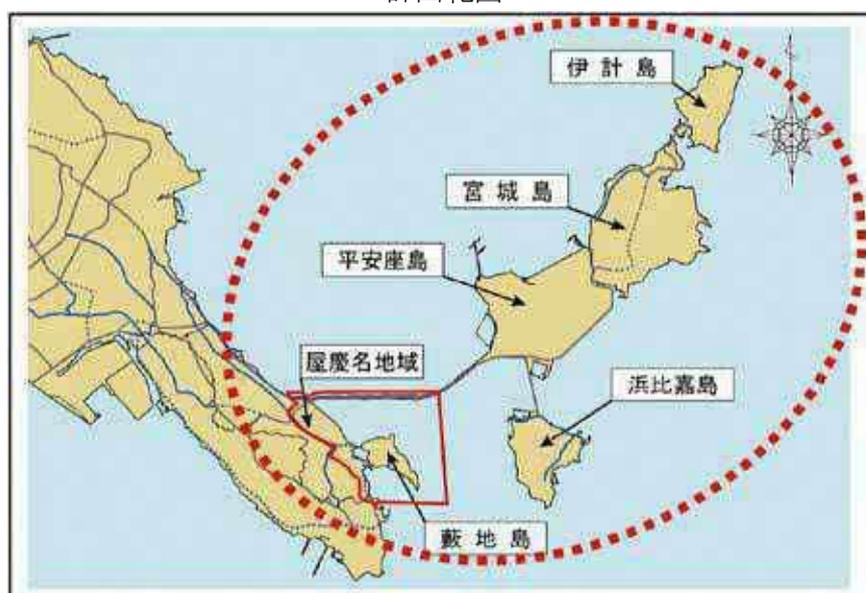
出所：うるま市「第 2 次うるま市産業振興計画」

#### (4) 東海岸開発基本計画（平成 23 年 3 月）

##### ①計画の位置づけ

旧与那城町で平成 14 年度に策定された「与那城町東海岸開発構想策定事業調査報告書」を合併後のうるま市においても継承し、新市建設計画の主要事業として位置づけ、推進していくことを目的としています。東海岸開発基本計画は、同構想を基本とし、藪地島、屋慶名地域を中心とした開発・活性化構想の策定時の経緯を踏まえて、施策の優先度や実施時期などを改めて検討し基本計画として策定しています。

計画範囲

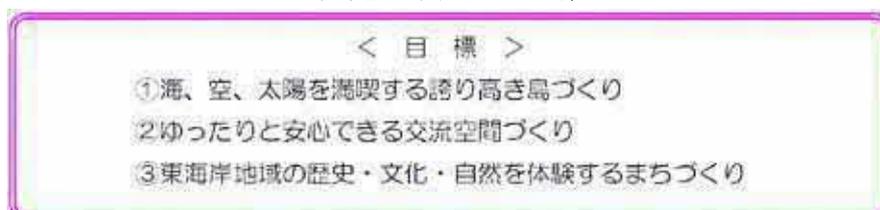


出所：うるま市「東海岸開発基本計画」

##### ②テーマと目標

同計画のテーマとして「誇り高き神秘の島と躍動するあやはしのまち～ゆったりと自然・歴史・文化を楽しむ東海岸づくり～」を掲げており、目標として、「①海、空、太陽を満喫する誇り高き島づくり」、「②ゆったりと安心できる交流空間づくり」、「③東海岸地域の歴史・文化・自然を体験するまちづくり」の 3 つを設定しています。

開発基本計画の目標



出所：うるま市「東海岸開発基本計画」

### ③各施策展開

東海岸の開発に関連する具体的施策の一覧とその整備スケジュール及び役割分担を整理しています。スケジュールは、短期（概ね 1～3 年後に完成）、中期（概ね 4～5 年後に完成）、長期（概ね 6 年後以降に完成）とし、藪地島に関する施策については、藪地島の筆界未定地が明確化後の整備予定としています。

これらのうち、公民連携による地域の経済活性化に特に関連すると考えられる具体的な施策として、屋敷名港周辺整備による水上・陸上の交通拠点づくり、古民家を活用した宿泊施設の整備や休憩案内所の整備などが挙げられています。

施策の展開一覧（公民連携による地域の経済活性化に特に関連するもの）

施策番号	施策名称	整備内容	短期	中期	長期	実施主体
3.	藪地島キャンプ場整備に関する事業	藪地島キャンプ場整備による藪地島の自然・歴史・文化の体験型観光づくり				
3-1.	キャンプ場及びバンガロー整備	キャンプ場、バンガロー ※整備：行政主体、管理・運営：観光協会等の民間主体	●	●		→
3-2.	遊歩道整備	市道17号線とキャンプ場を結ぶルート整備、駐輪場整備 遊歩道幅員：4m ※整備：行政主体、管理・運営：観光協会等の民間主体	●	●		→
4.	屋敷名港周辺整備に関する事業	屋敷名港周辺整備による水上・陸上の交通拠点づくり				
4-1.	マーラン船周遊整備	屋敷名港等整備、マーラン船造船整備、周遊ルートの整備 ※整備：行政主体、管理・運営：観光協会等の民間主体	●	●		→
4-2.	屋敷名港の駐車場整備	屋敷名港の整備及び施設利用や移動手段を歩行・自転車へ変更するための駐車場整備 ※整備・管理：行政主体	●			→
7.	古民家の整備・活用	古民家を活用した宿泊施設の整備や休憩案内所の整備 ※整備・管理・運営：民間及び地域主体		●	●	→

出所：うるま市「東海岸開発基本計画」

## (5) 津堅島振興総合計画（令和3年8月）

### ①計画の位置づけ

「第2次うるま市総合計画後期基本計画」の分野別横断施策「島しょ地域振興」及び「第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の効果的な促進を図るため、津堅島の地域振興に特化した内容の計画を策定しています。

津堅島は、沖縄本島中部の中城湾の沖合、勝連半島から南東約4kmの中城湾の沖合に位置する面積1.88km<sup>2</sup>の島で、平敷屋漁港から津堅港に定期船が就航しています。

津堅島の位置図

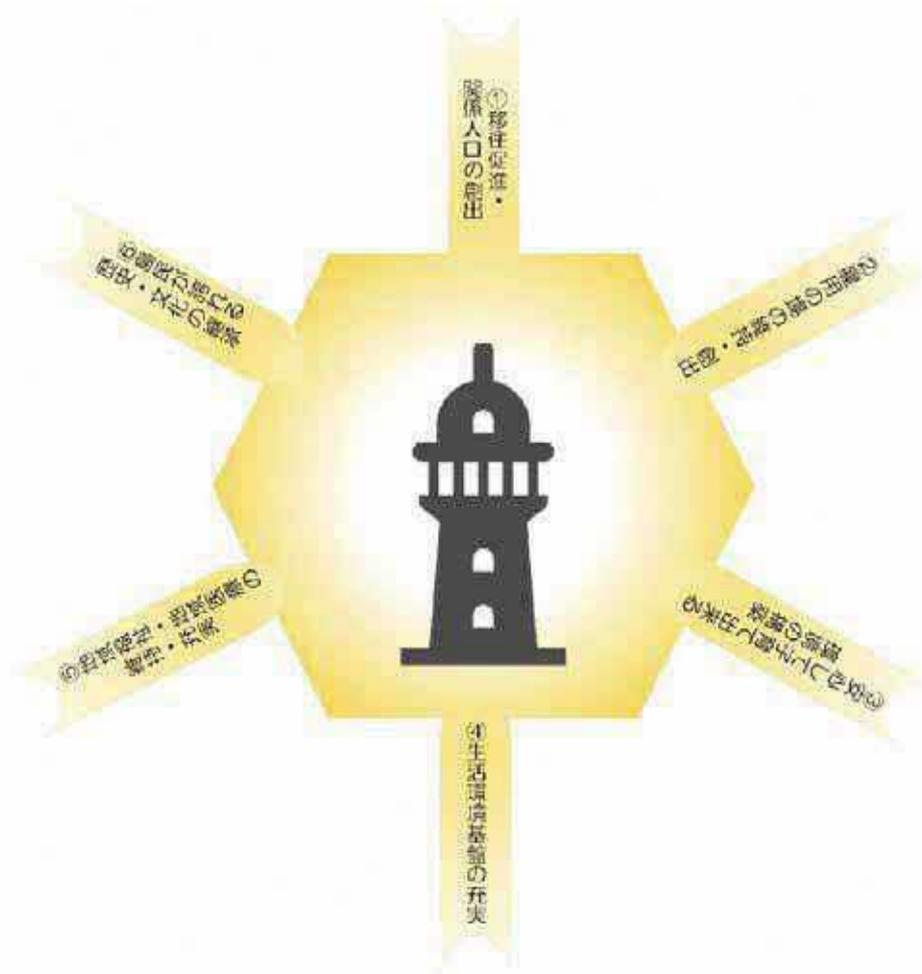


出所：うるま市「津堅島振興総合計画」

## ②基本理念と基本目標

基本理念として、人口減少が進む県内離島の地方創生の道しるべ（モデルケース）となること、灯台のようにうるま市を照らす地域を目指すことが示されており、それを実現するため基本目標として、「①移住促進・関係人口の創出」、「②雇用の維持・創出」、「③安心して子育て出来る環境の構築」、「④生活環境基盤の充実」、「⑤地域福祉・地域医療の維持・充実」、「⑥島民が誇れる歴史・文化の継承」の6つを設定しています。

### 津堅島振興総合計画の基本目標



出所：うるま市「津堅島振興総合計画」

### ③各施策展開

津堅島の振興に関連する具体的な事業を整理しています。これらのうち、公民連携による地域の経済活性化に特に関連すると考えられる具体的な事業として、ワーケーション推進、サテライトオフィス誘致、民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備・受入れ体制整備、複合拠点整備の検討などが挙げられています。

#### 具体的な事業（公民連携による地域の経済活性化に特に関連するもの）

基本目標	基本施策	具体的な事業
基本目標 1 (移住促進・関係人口の創出)	関係人口の創出	<ワーケーション推進> ワーケーションを通して、新たなうるま市のファン層を獲得し、関係人口の増加を目指す。
		<サテライトオフィス誘致> サテライトオフィスの誘致活動を行い、津堅島の認知度向上及びサテライトオフィス開設を目指す。
基本目標 2 (雇用の場の維持・創出)	農業の活性化支援	<民間企業等との連携・協創によるツーリズム拠点整備・受入れ体制整備> ツーリズム拠点整備・受入れ体制の整備を検討する。
基本目標 3 (安心して子育て出来る環境の構築)	複合的利用	<複合拠点整備の検討> 救急救命・防災・地域コミュニティ活性化の観点から、津堅島における複合拠点整備の検討を進める。

出所：うるま市「津堅島振興総合計画」

## (6) うるま市総合交通戦略（令和2年3月）

### ①計画の位置づけ

うるま市では2019年3月に、総合計画や都市計画マスタープランで掲げる将来像実現に向けて、地域拠点間を結ぶ交通ネットワークの強化、観光資源を活かせるような観光周遊ネットワークの構築、物流円滑化と交通負担軽減に向けた産業に資するネットワーク構築などの課題を解決するため、交通まちづくりの観点から「うるま市交通基本計画」（以下、交通基本計画という）を策定しています。

「うるま市総合交通戦略」は、交通基本計画に基づき、短・中期（5年～10年）で優先的に取り組むべき施策の具体的な内容や整備方針、推進体制、実施目標などを明確にし、市民・事業者・行政等がそれぞれの役割のもと、取組を推進することを目的として策定しています。

### ②総合交通戦略策定の考え方

交通基本計画では、基本理念として「美しい自然を活かし、安心して暮らせる地域活力を創出する交通まちづくり」を掲げており、これを達成するために、3つの将来目標と5つの基本方針が定められています。総合交通戦略ではこれら5つの基本方針に基づき、実施施策を策定しています。

交通基本計画における基本理念、将来目標及び基本方針



出所：うるま市「うるま市総合交通戦略」

### ③短期・中期戦略と実施施策

交通基本計画で掲げている基本方針に沿って、ハード面・ソフト面一体で優先的かつ重点的に取り組むべき施策について、実施体制や具体的な取組を明示し、戦略として示しています。

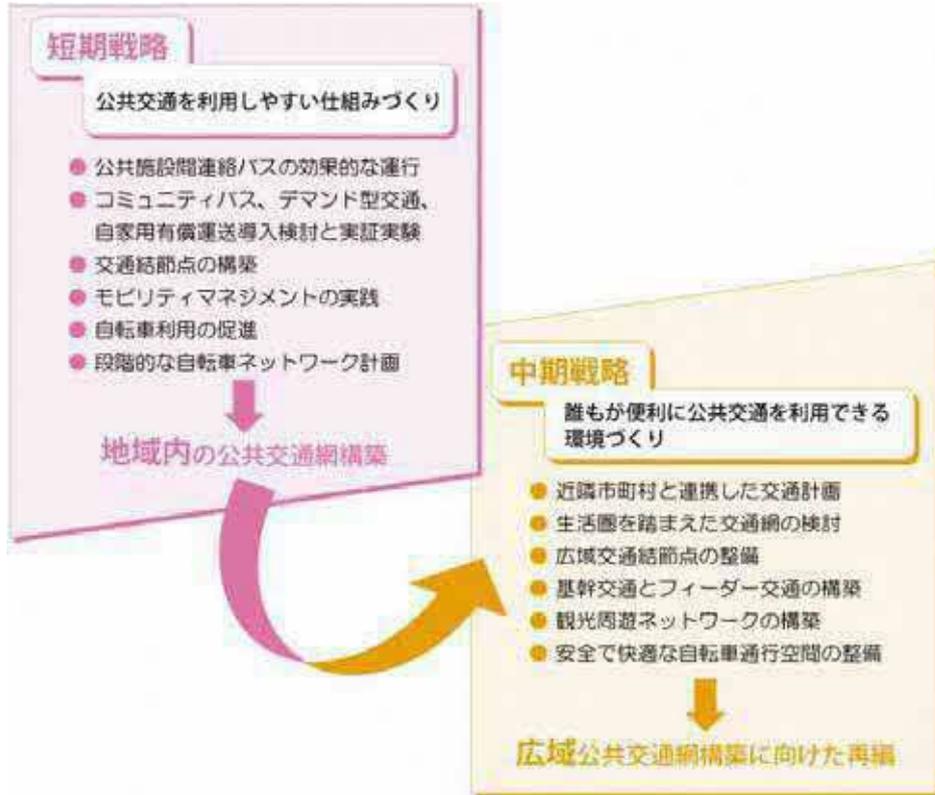
勝連・与那城地域に関しては、自転車による市民・観光客の移動手段の整備や道の駅の整備検討などが施策として設定されています。

実施施策と取組（勝連・与那城地域に特に関連するもの）

実施施策		取組概要	基本方針				
			I	II	III	IV	V
自転車利用環境の改善	自転車による市民・観光客の移動手段の整備	市民の身近な移動手段として、また、観光地の周遊性向上のため、さらには交通拠点等からの二次交通の充実、環境負荷の低減を目的に、自転車による移動手段（レンタサイクル・シェアサイクル）の整備検討を行います。また、あわせて駐輪場等の整備も行い、観光地周辺の賑わいを創出します。					●
公共交通の利用環境の改善	交通結節点の整備	将来的な基幹バス延伸や支線バスの検討等により、公共交通の乗り換えが発生することが予想される安慶名周辺等において、交通結節点の整備を検討します。また、屋慶名・前原の交通結節機能強化を検討します。			●		●
観光の魅力を高める仕組みづくり	道の駅の整備検討	観光拠点である海の駅あやはし館について、道の駅の機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）を備えた施設として整備できるように検討を行います。					●
	うるマルシェの交通結節機能強化	前原を路線バスやレンタサイクルなどの交通モードの接続拠点、さらにはクルーズ船で寄港した観光客の接続拠点として機能できるように、交通結節機能の強化を図り、市街地のみならず、東部地区や島しょ地区のゲートウェイ機能の向上を図ります。					●

出所：うるま市「うるま市総合交通戦略」

## 公共交通の取組についての戦略イメージ



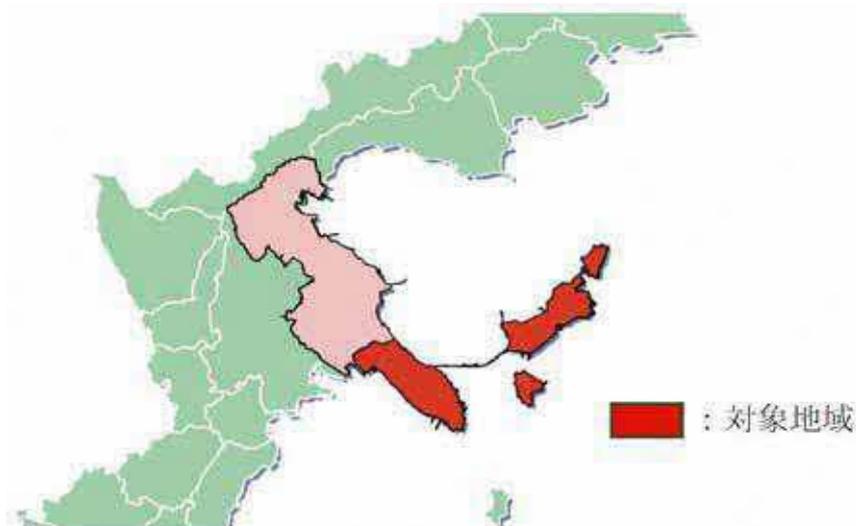
出所：うるま市「うるま市総合交通戦略」

## (7) うるま市自転車ネットワーク計画（東部地区）（平成 30 年 8 月）

### ①計画の位置づけ

うるま市の交通体系を支える移動手段の一つとして自転車を位置づけ、安全で快適な自転車通行空間を創出することを目的とし、自転車ネットワーク計画を策定しています。同計画は「うるま市交通基本計画（平成 31 年 3 月）」及び「うるま市総合交通戦略（令和 2 年 3 月）」の策定に先立って、東部地区（勝連半島、島しょ地域）に関する計画を策定したものであり、将来的にはうるま市全体、近隣市町村へと繋がる自転車ネットワークの拡大を目指しています。

自転車ネットワーク計画の対象地域



出所：うるま市「うるま市自転車ネットワーク計画（東部地区）」

## ②基本方針

うるま市では、日常利用から観光利用まで様々なシーンにおける自転車利用の普及を目指しており、本計画では面的な自転車ネットワークの構築、自転車通行空間の整備に向けて、5つの基本方針を設定しています。

### 基本方針

<b>基本方針 1 自転車事故のない安全で安心な自転車空間の整備</b>
◆ 自転車は「原則車道を通行する」ため、自転車が安全に通行できる空間の整備
<b>基本方針 2 世界遺産や観光拠点、美しい自然景観を巡るサイクリングロードの整備</b>
◆ うるま市の風光明媚な観光拠点を自転車でも周遊できるような仕組みづくり
<b>基本方針 3 うるま市全域及び近隣市町村につながる自転車ネットワークの構築</b>
◆ うるま市内で完結するのではなく、近隣市町村と連携した広域的なネットワークの構築
<b>基本方針 4 自転車の利活用による住民の健康増進と地域活性化</b>
◆ 身近な交通手段として日常利用することにより、健康増進とさらには地域活性化に寄与する
<b>基本方針 5 自然を大切に作る心と環境を守る低炭素社会の実現</b>
◆ 環境負荷の低い交通手段として、公共交通を補完する交通体系として、将来的な交通手段転換を推進

出所：うるま市「うるま市自転車ネットワーク計画（東部地区）」

### ③自転車ネットワーク路線の選定

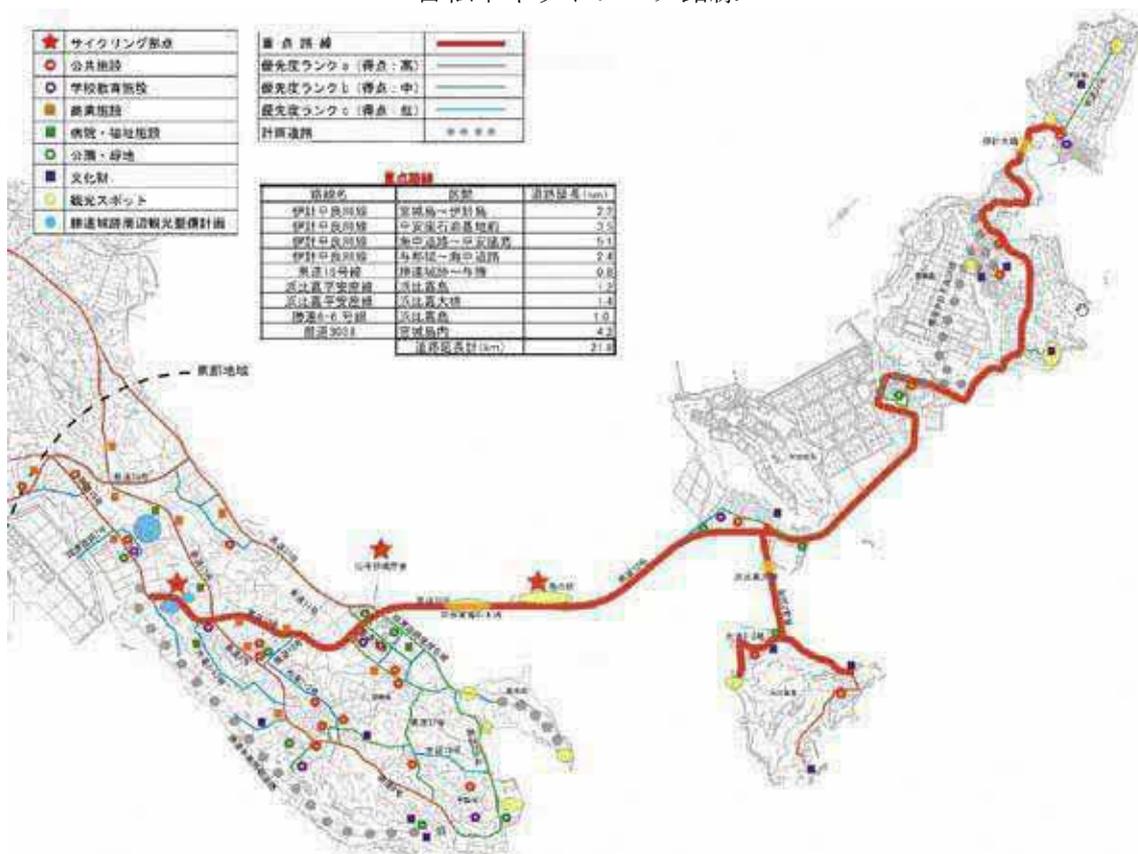
東部地区における既存道路や計画道路から、自転車ネットワーク路線を選定するために、4つの選定条件を設定しており、これらの条件を満たす路線を組み合わせることで、自転車ネットワークの構築を目指しています。

うるま市観光振興ビジョンにおいて、東部地域の勝連城跡、海中道路及び島しょ地域が「重点プロジェクト」として位置づけられていることから、本計画では、東部地域の勝連城跡、海中道路及び島しょ地域を通過する一部路線を重点路線に選定しています。

#### <選定条件>

- (1)観光利用（史跡・文化財・景勝地巡り）を考慮した路線
- (2)生活利用（通勤、通学、日常利用、健康・レジャー）を考慮した路線
- (3)自転車の広域利用を考慮した路線
- (4)連続性を確保するために必要な路線

#### 自転車ネットワーク路線



出所：うるま市「うるま市自転車ネットワーク計画（東部地区）」

### 3. 勝連・与那城地域に対する関係者の認識

まちづくりを進めていくうえでは、地域で生活する住民の意見はもちろんのこと、まちづくりの担い手となりうる団体や事業者、うるま市役所のまちづくりに関係する部署などの意見を把握し、計画に反映していくことが重要です。そのため、これらまちづくりの関係者が勝連・与那城地域に対して持つ印象、強みや課題の認識、目指すべきと考える方向性等について調査を行いました。

#### (1) 住民

##### ①アンケート調査の方法

勝連・与那城地域に暮らす 18 歳以上 64 歳以下の市民に対して、無作為抽出によるアンケートを実施しました。

住民アンケートの実施概要

項目	概要
調査地域	うるま市勝連・与那城地域
調査対象	勝連・与那城地域の 18 歳以上 64 歳以下の市民 1,000 名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布のうえ、①郵送による回収（無記名方式）または②ウェブサイトによる回収（無記名方式）
調査期間	令和 4 年 8 月 24 日～9 月 16 日
配布数	1,000 通
回収数	174 通
有効回収率	17.4%

## ②結果概要

地域住民アンケートでは、勝連・与那城地域の住みやすさ、就業・就学、魅力と  
感じる地域資源、住み続けたい理由等について質問しているほか、今後のまちづく  
りに関する意見を収集しています。

地域住民アンケートの結果概要

項目	概要
回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>回答者の属性は、男性・女性ともにほぼ同割合で、やや女性の回答が多くなっています。</li> <li>居住年数が20年以上の方の回答が、全体の約75%を占めています。</li> </ul>
「住みやすさ」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝連・与那城地域に居住する理由としては、今の住居に満足しているまたは親戚・友人・知人が多いからとの理由が多く、コミュニティに対する満足度や自然環境の良さが評価されています。他方で買い物などの日常生活の不便さを課題に挙げる意見があります。</li> <li>勝連・与那城地域で就業（就学）している方が最も多く、その他うるま市内を含めると約50%以上を占めていますが、近隣の地域への就業（就学）も見受けられる状況となっています。今後も本地域を含めうるま市内で就業したいニーズは高い状況にあります。</li> </ul>
「まちの将来像とうるま市の取組」について	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの実現にあたっては、バス・タクシーなどの公共サービスの利便性向上に向けた取組を課題に挙げる意見が多くなっています。道路整備や街路灯整備などを希望する意見などもあり、交通・インフラの整備や景観、日帰り観光が多いことなど観光地としての連続性を課題と感じる回答者が多くなっています。</li> <li>地域資源の魅力としては、自然・風景が最も多く、文化・歴史と回答する意見も多くなっています。</li> <li>今後のまちづくりに対するニーズについては、雇用の増加や賑わい創出などを求める意見が多く、安全に暮らせるまちや医療や健康が充実しているまちを望む意見が多数あります。</li> <li>就業環境では希望する賃金・給与の仕事がないなど雇用需要と供給との間で相違が生じている状況がみられ、今後は医療・福祉や宿泊・飲食サービス業で就業したいという意見が多くなっています。</li> <li>今後については、子育て支援など就業しやすい環境の充実や道路などの基盤整備、産業・企業誘致などの取組を求める意見が多数あります。</li> </ul>

## (2) 関係団体等

### ①ヒアリング調査の方法

地域のまちづくりの重要な関係者となりうる市内・県内の企業・団体に対し、ヒアリングを実施しました。

市内・県内の企業・団体のヒアリング実施概要

項目	概要
調査対象	地域金融機関、旅行会社、市内の商業・観光関連団体の計7企業・団体
調査方法	対面によるヒアリング
調査期間	令和4年9月～10月

### ②結果概要

うるま市及び勝連・与那城地域の印象や強み・ポテンシャル、課題、今後のまちづくりの方向性等について意見交換しました。

ヒアリングの結果概要

質問項目	主な意見
うるま市について	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海岸の市町村の中でも観光面のポテンシャルが高い</li> <li>うるま市までの交通環境にやや不便さがある</li> <li>IT企業や製造業の誘致の観点では県内トップクラス</li> <li>宿泊施設の数や観光客からの認知度は十分とは言えない</li> <li>大規模な開発が進んでいる地域ではないため、まずは堅実な開発を積み重ねた方がよい</li> <li>滞在時間が短く、地域にあまりお金が落ちていない</li> </ul>
勝連・与那城地域について	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光スポットが点在しており観光地らしさの醸成が不十分</li> <li>宿泊施設や飲食店が不足しており、滞在時の利便性が低い</li> <li>景観条例の高さ制限がホテル誘致のネックとなっている</li> <li>海中道路は地域のキラーコンテンツである</li> <li>オーシャンビューやマリンスポーツ等を活用して、より観光客にアピールできるような工夫が必要である</li> <li>島しょは独自の文化や歴史に触れられる点で西海岸とも差別化が可能。リピーター向けのコアな観光地化や、ハイクラスリゾートホテル誘致のポテンシャルがある</li> <li>島しょの観光振興は住環境の悪化懸念や駐車場の不足等が課題</li> <li>肝高の阿麻和利は地域団体や中高生が中心であり、ビジネスにつなげる難しさはあるが、活用余地はまだ残っている</li> </ul>
今後のまちづくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き観光分野へ注力する方向性でよいのではないか</li> <li>まずは勝連城跡周辺整備をきちんと成功させることが重要</li> <li>旧与那城庁舎周辺を活用したスポーツコンベンション誘致の可能性が考えられる</li> <li>旧与那城庁舎周辺をリニューアルし、海岸線もきれいにしてホテルを誘致してはどうか</li> </ul>

### (3) うるま市役所関係部署

うるま市役所のまちづくりに関係する部署に対し、勝連・与那城地域の将来像や、特に取り組むべき地域課題について意見聴取を行いました。

地域のまちづくりに関する庁内意見の概要

項目	主な意見
地域の将来像	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 勝連・与那城地域の一番の資源は自然環境であり、それらにより育まれた地域の歴史や文化もまた重要な地域資源である</li> <li>• 勝連城跡や海中道路だけではなく、より視野を広げ様々な可能性を検討していくことが重要である</li> <li>• 健全な財政運営を目指すため、施設の集約化や複合化も含めた持続可能なまちづくりの視点は重要である</li> </ul>
特に取り組むべき地域課題	<p><b>【観光・文化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 誘客力のある地域資源を十分に活かさず、滞在時間を延ばす観光拠点の整備が必要である</li> <li>• 地域の伝統芸能や農水産物を観光誘客につなげていく取組を進めてはどうか</li> <li>• 勝連城跡、海中道路、旧与那城庁舎だけでなく、東照間商業等施設（TERUMA）やうるマルシェなども含めた広域的な計画としていく必要がある</li> </ul> <p><b>【人口減少・少子高齢化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市街地の狭あい道路の解消、公共交通の利便性向上等により、住み続けるための住環境の維持・創出が必要である</li> <li>• 島しょ地域全域で進行する人口減少及び少子高齢化の対策として、地域コミュニティの維持、市外からの移住促進、若者世代の雇用創出や企業誘致等に特に取り組む必要がある</li> </ul>

#### (4) 事業者

##### ①現地視察会<sup>4</sup>

県外を含む事業者を対象として、勝連・与那城地域のまちづくりにおいて有効活用が期待される候補地を実際に見ていただき、今後の取組の検討につなげていただくことを目的とした現地視察会を開催しました。

現地視察会の開催概要

項目	概要
開催日	令和4年10月18日(火)
参加事業者	建設事業者4社7名、非建設事業者3社4名
視察先	① 海の駅あやはし館及びロードパーク ② 与那城総合公園 ③ 世界遺産勝連城跡・あまわりパーク ④ 勝連総合グラウンド・勝連 B&G 海洋センター ⑤ きむたかホール

##### ②視察後アンケートの結果概要

現地視察会に参加した事業者に対し、事業参画や投資への意欲、個々の候補地への関心度等に関する事後アンケートを行ったところ、勝連・与那城地域において機会があれば事業参画や投資をしたいと回答した建設事業者は4名、非建設事業者は3名であり、参加者の半数以上が一定の関心を示す結果となりました。

また、地域のまちづくりに対しては、沖縄県の東海岸は今後の旅行産業の活性化において大きなポテンシャルを持っているという意見や、それぞれの地域を活性化するため施設整備を促すような開発だけでなく、原風景を残す又は原風景へと戻すエリアを設定し、保全を図るなど強弱をつけたまちづくりが必要という意見、沖縄県内での差別化が重要であり、他の市にない特徴を発見し伸ばしていくことが必要という意見がありました。

事業参画や投資への意欲



<sup>4</sup> 石川地域の現地視察会もあわせて同日に開催した。

### ③事業者サウンディング<sup>5</sup>

県外や市外の事業者を対象として、勝連・与那城地域での事業展開や投資の可能性、利活用に関心のある地域資源等について聞き取りを行う事業者サウンディングを実施しました。

事業者サウンディングの実施概要

項目	概要
実施日程	令和4年11月～令和5年1月
対象事業者	計17事業者 <sup>6</sup> (建設・不動産：11事業者、施設管理運営：5事業者、宿泊施設：3事業者、小売：1事業者)
主な聞き取り項目 <sup>7</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>うるま市の印象やポテンシャル</li> <li>勝連・与那城地域の印象やポテンシャル</li> <li>今後のまちづくりに対する意見等</li> </ul>

### ④事業者サウンディングの結果概要

特に県外の企業は、東海岸の地域との認識であり、西海岸に比べ投資には消極的という意見がある一方、今後伸びるエリアとして東海岸を注目しているという意見もありました。勝連・与那城地域については、県内でも独自性の高い観光地という評価がある一方、観光地間の物理的な距離があり連携も不十分であることや、商業を展開するには厳しいエリアであるといった意見がありました。

事業者サウンディングの主な意見

項目	主な意見
うるま市の印象やポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> <li>西海岸は既に開発しつくされている。東海岸は人口増加も続いており、今後伸びていくエリアとして注目している</li> <li>うるま市は那覇からも比較的近いうえ、西海岸と比較しても極端に見劣りせず、北部のやんばるとも違う魅力がある</li> <li>うるま市をはじめ東海岸に対しては積極的な投資がしにくい</li> </ul>
勝連・与那城地域の印象やポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝連城跡や島しょがあり、県内でも独自性の高い観光地である</li> <li>観光地間の物理的な距離があり、連携のイメージが持ちにくい</li> <li>商業やテナント誘致の観点からは厳しいエリアとの認識である</li> </ul>
今後のまちづくりに対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝連・与那城地域には民泊等の小さな宿泊施設が多数あるため、あえて大きなホテルを整備する必要性は感じない</li> <li>東海岸の振興においては、サンライズを生かし、健康志向の高まりに着目した取組を展開すると良いのではないかと</li> <li>西海岸は人工物が多い印象なので、東海岸は遺跡など沖縄オリジナルの観光資源を活用することで差別化できるのではないかと</li> </ul>

<sup>5</sup> 石川地域の事業者サウンディングもあわせて実施した。

<sup>6</sup> 複数の業種に該当する事業者が対象に含まれているため、内訳の事業者数とは一致しない。

<sup>7</sup> リーディングプロジェクトに関する聞き取り結果は第5章参照。

#### 4. 分析結果の整理

##### (1) 勝連・与那城地域の特長・強み

###### ①豊かな自然環境や美しい景観

勝連・与那城地域では、勝連半島や海中道路、島しょ等の至る所で豊かな自然環境や美しい景観を目にすることができ、地域住民、関係団体等、事業者等の立場を超える多くの関係者から、この点を高く評価する声が上がっています。

こうした自然や環境を改めて勝連・与那城地域の貴重な地域資源ととらえ、地域の魅力向上や観光誘客に一層生かしていくとともに、将来にわたって維持・継承していくことが重要と考えられます。

###### ②歴史・文化等のソフトパワー

世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一つである勝連城跡や、地域における歴史上の人物を題材にした地元の中高生による現代版組踊「肝高の阿麻和利」等、歴史や文化を背景とした他の地域にはない特徴的なソフトコンテンツが存在しています。地域住民アンケートの結果や関係団体等へのヒアリング結果からも、こうした歴史や文化が貴重な地域資源であり、地域に対する愛着やシビックプライドの醸成にもつながっているとの認識がうかがえます。

今後は、これらの地域資源の更なる磨き上げや活用を推進し、観光客や市外の住民・事業者等にもその存在や魅力が伝わるよう取り組んでいくことで、まちの発展や地域の振興につなげていくことが必要と考えられます。

###### ③個性豊かな島しょの存在

勝連・与那城地域には 5 つの島からなる島しょ部が存在しています。海中道路等の橋でつながり車でアクセス可能な平安座島、浜比嘉島、宮城島、伊計島の 4 島と、フェリーによって 30 分程度でアクセス可能な津堅島は、それぞれ歴史、文化、景観、産業等に特徴を有しています。関係団体等や事業者からも、これらの島しょ部が、勝連・与那城地域のみならずうるま市全体を特徴づける重要な要素であるとの声が聞かれています。

今後は、島しょ部の地域住民の生活環境や文化、慣習等への配慮や尊重を前提としながら、島しょ部の魅力をより多くの人に知ってもらい、体感してもらうための様々な取組を進めていくことが、地域の持続的な発展にとって重要になると考えられます。

## (2) 勝連・与那城地域の課題・弱み

### ①面としての魅力づくり

勝連・与那城地域には、世界遺産勝連城跡、海中道路、島しょ等の魅力的な地域資源がありますが、地域内の各所に点在しており、それらの間をつなぐ取組も不十分なため観光地としての雰囲気欠けという意見や、飲食店や宿泊施設の不足とそれらの複合的な要因による来訪者の滞在時間の短さや消費の少なさ等により、地域への波及効果に十分つながっていないといった意見が関係団体等から挙がっています。

こうした意見を踏まえると、観光客をはじめとする来訪者を増加させ、それを地域の経済活性化につなげるためには、誘客や滞在、消費を生み出す核となる拠点を創出するとともに、それらの間をハード・ソフト両面でつなげる取組を推進することで、周辺にも魅力ある店舗や観光スポット等が形成されていき、面的に魅力ある地域を目指していくことが必要と考えられます。

### ②他地域との差別化と効果的な魅力発信

勝連・与那城地域には、誘客のポテンシャルを有する地域資源が多数存在する一方で、特に市外事業者への調査において、それらが十分に認知されていないという課題が浮かび上がっています。また、事業者のほか関係団体等に対するヒアリングでも、沖縄における観光では那覇市や西海岸のリゾートエリアが優位な状況は続いているとの見解が示されていることは否定のできない事実です。

こうした現状を踏まえると、特に沖縄県内の他地域の後を追うような方向性で観光振興に取り組んだ場合、厳しい競争に巻き込まれる懸念があります。そのため、これらの地域との差別化を意識しながら、勝連・与那城地域ならではの観光誘客の魅力をつくり上げるとともに、その魅力を訴求すべきターゲットに焦点を当てた効果的な情報発信を図っていくことが重要と考えられます。

### ③地域の資源やコミュニティの継承・発展

勝連・与那城地域は、うるま市全体の傾向とは対照的に人口減少が進んでいます。また、老年人口が増加する一方で年少人口や生産年齢人口は減少しており、うるま市全体に比べ少子高齢化も進んでいます。そして、これらは勝連・与那城地域の中でも特に島しょ部で顕著であるとの見解が、関係団体等から聞かれています。

こうした人口減少や少子高齢化が今後更に進むと、勝連・与那城地域が有する特色ある自然、歴史、文化や地域のつながりの継承や発展における危機と考えられます。定住人口の増加、観光客や就労等による関係人口の増加、地域外への人口流出の抑制等を実現するため、観光・産業の振興や企業誘致、生活環境の充実といった様々なアプローチにより、この課題に取り組んでいく必要があると考えられます。

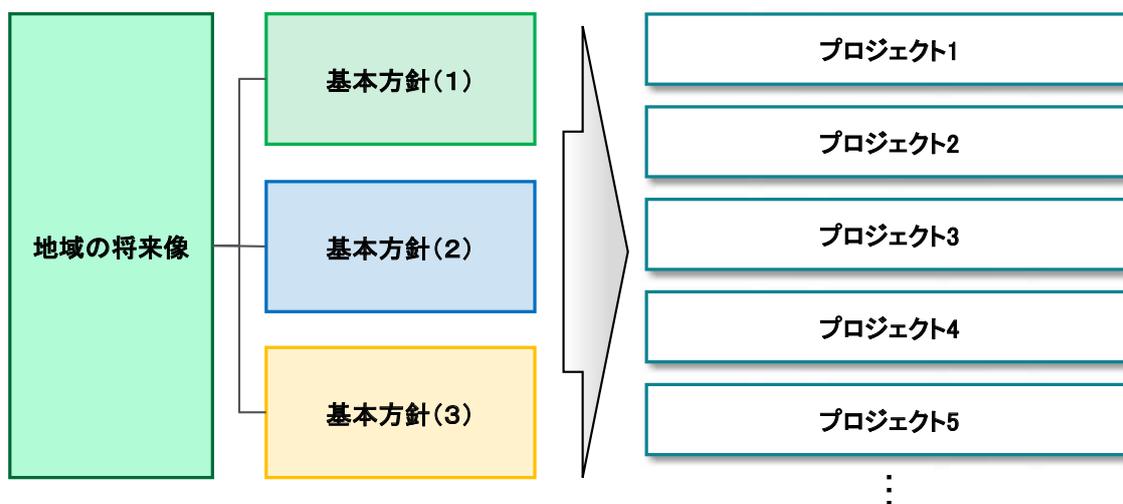
## 第4章 勝連・与那城地域の目指す姿

### 1. まちづくり推進の施策体系

多くの関係者と連携してまちづくりを効果的に推進していくためには、地域の現状や課題を踏まえた地域のまちづくりの目標や方針、それらに基づく具体的なプロジェクトをわかりやすく示すことが重要です。

そこで、本計画では「地域の将来像－基本方針－まちづくり推進に向けたプロジェクト」の形でまちづくりの施策体系を整理します。

まちづくり推進の施策体系



## 2. 勝連・与那城地域の将来像

### 勝連・与那城地域の将来像

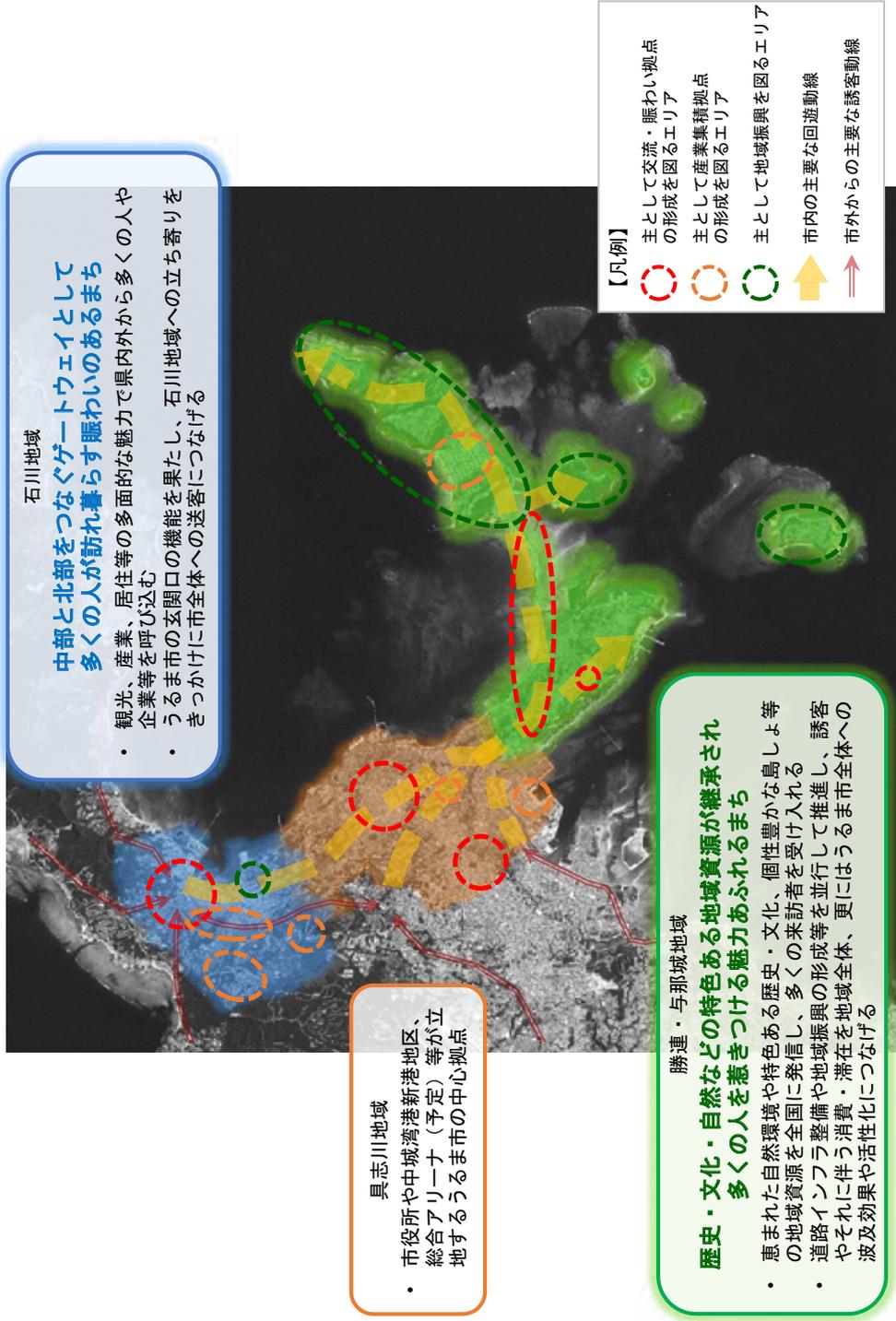
#### **歴史・文化・自然などの特色ある地域資源が継承され、 多くの人を惹きつける魅力あふれるまち**

勝連・与那城地域は、その豊かで美しい自然環境、世界遺産勝連城跡や肝高の阿麻和利に代表される歴史・文化、個性豊かな島しょ部の存在等、他の地域にはない特色ある地域資源を多数有しています。そしてこれまでも、こうした地域資源を生かしながら、地域の人々が生き生きと暮らすことのできるまちづくりを目指してきました。

人口減少や少子高齢化といった地域が直面する課題に打ち勝つとともに、那覇市や西海岸のリゾートエリア等の魅力ある地域に近接する中で、多くの人に注目され、選ばれる地域となるためには、歴史・文化・自然といった勝連・与那城地域ならではの地域資源を最大限に活用し、観光を基軸としたまちづくりを進めていく必要があります。

特色ある地域資源の磨き上げを図り、多くの人を惹きつける魅力あふれる地域を形成するとともに、来訪者の長時間の滞在や活発な消費を促す仕組みを構築することで、地域の経済活性化につなげます。そして、それらの結果として新たな雇用や産業が生まれ、訪れる場所だけでなく働く場所、生活する場所としての魅力向上にもつながり、歴史・文化・自然といった地域資源の継承・発展の新たな担い手を生み出していくという好循環を創出することを目指したまちづくりを進めます。

全体まちづくり図



出所：国土地理院地図（写真）を加工して作成

### 3. 基本方針

#### (1) 消費や滞在の受け皿となる誘客拠点の形成

目的地として多くの人を訪れるだけでなく、来訪者の消費や滞在の受け皿ともなる地域内の誘客の拠点を強化します。

まずは、勝連・与那城地域の代表的な観光スポットである世界遺産勝連城跡や海中道路における誘客・消費・滞在の機能強化に取り組み、中長期的にはそれらの間や周辺、更には島しょなど地域全体の面的な機能強化に取り組みます。

また、市が推進している公園の公民連携の取組を継続・強化し、地域住民や来訪者の滞在拠点となる魅力的な公園づくりを進めます。

#### (2) 選ばれる地域となるための特色ある魅力づくり

魅力ある観光地が多数立地する沖縄県内において多くの人に選ばれ、訪れてもらえる地域となるため、勝連・与那城地域ならではの歴史・文化や自然環境等を尊重しつつ、これらを最大限に活用することで、特色ある地域づくりを進めます。

世界遺産勝連城跡やきむたかホールを拠点とした現代版組踊「肝高の阿麻和利」の発信、海中道路やその周辺におけるマリンスポーツ・アクティビティ等の拠点化、島しょ部の学校跡地や古民家の利活用等により、他の地域にはない魅力の創出に取り組みます。

#### (3) 誘客の恩恵を地域全体に波及させるための環境整備

誘客の効果が一部にとどまるのではなく、地域全体に行きわたるようにすることで、観光を基軸としたまちづくりを通じ、地域住民の生活環境の充実や人口減少・少子高齢化といった困難への対応にも貢献することを目指します。

勝連地域や与那城地域の公共施設及びその周辺の利活用、県道 37 号線沿道エリアへの飲食・宿泊・物販等の機能の集積、島しょの資源を生かした魅力づくり等に取り組みます。

また、中部東道路や「(仮称)平安名屋慶名線」「(仮称)勝連半島南側道路」の整備、サイクルツーリズムの推進、公共交通の充実等に取り組み、広域からの誘客や地域内での回遊性の向上に資する取組も進めます。

なお、観光以外の切り口からも地域全体の経済活性化を図る観点から、沖縄振興特別措置法に基づく経済特区である国際物流拠点産業集積地域に指定された、平安座地区の工業専用地域における利活用の推進に向けた企業誘致等の可能性についても検討します。

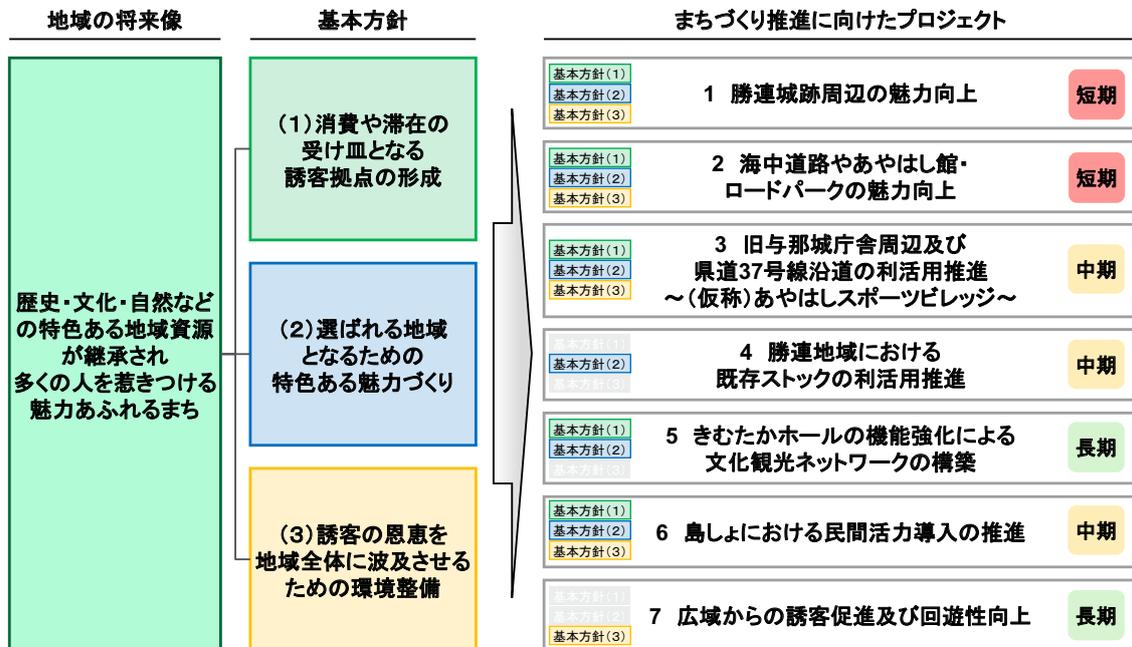
#### 4. まちづくり推進に向けたプロジェクト

将来像や基本方針を踏まえ、勝連・与那城地域のまちづくりの推進に向けて市と事業者・団体等が観光を基軸とした公民連携で推進していく主要プロジェクトを設定します。

勝連・与那城地域の主要プロジェクト一覧

プロジェクト	取組期間
1 勝連城跡周辺の魅力向上	短期 (概ね 2030 年度までの完了を目指す)
2 海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上	短期 (概ね 2030 年度までの完了を目指す)
3 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進 ～ (仮称) あやはしスポーツビレッジ～	中期 (概ね 2035 年度までの完了を目指す)
4 勝連地域における既存ストックの利活用推進	中期 (概ね 2035 年度までの完了を目指す)
5 きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築	長期 (2036 年度以降の完了を目指す)
6 島しょにおける民間活力導入の推進	中期 (概ね 2035 年度までの完了を目指す)
7 広域からの誘客促進及び回遊性向上	長期 (2036 年度以降の完了を目指す)

勝連・与那城地域の施策体系



プロジェクト  
1

勝連城跡周辺の魅力向上

■ 基本方針との対応

(1) 消費や滞在の  
受け皿となる誘客拠  
点の形成

(2) 選ばれる地域  
となるための  
特色ある魅力づくり

(3) 誘客の恩恵を  
地域全体に波及させ  
るための環境整備

■ 取組期間

**短期**  
概ね 2030 年度までの  
完了を目指す

**中期**  
概ね 2035 年度までの  
完了を目指す

**長期**  
2036 年度以降の  
完了を目指す

■ 担当課・関係課

担当課	プロジェクト推進2課、観光イベント課
関係課	生涯学習文化振興センター、文化財課

■ 位置図



出所：国土地理院地図（淡色地図）を加工して作成

位置関係



## 世界遺産勝連城跡全景



### ①背景及び課題

世界遺産勝連城跡は、海中道路と並ぶ勝連・与那城地域の主要な観光スポットとして、多くの観光客で賑わっています。しかし、勝連城跡の周辺に消費や滞在につながるような機能がないため、せっかくの来訪を十分な経済効果につなげられていないという課題があります。

うるま市は勝連城跡の隣接エリアに、出土品や市の歴史・文化の展示、肝高の阿麻和利の物語を伝えるライブパフォーマンスなどを楽しめる歴史文化施設を整備し、令和3年に「あまわりパーク」を開業しましたが、今後も更なる消費や滞在につながる機能の集積を図っていくことが求められています。

### ②対象地・対象施設の概要

#### ア あまわりパーク

所在地	勝連南風原 3807-2
アクセス	那覇空港から沖縄自動車道経由で約 60 分
法規制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画区域（用途未指定）</li> <li>・特定用途制限地域（勝連城跡周辺保全地区）</li> <li>・景観地区（勝連城跡環境保全ゾーン）</li> <li>・都市公園（一部）</li> <li>・農業振興地域（農用地区域は含まれない）</li> <li>・地域森林計画対象民有林（一部）</li> </ul>

#### イ 歴史文化施設

建築年	令和 2 年（2020 年）
構造・階数	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 2 階建
面積	建築面積：2,034 m <sup>2</sup> 延床面積：1,996 m <sup>2</sup>

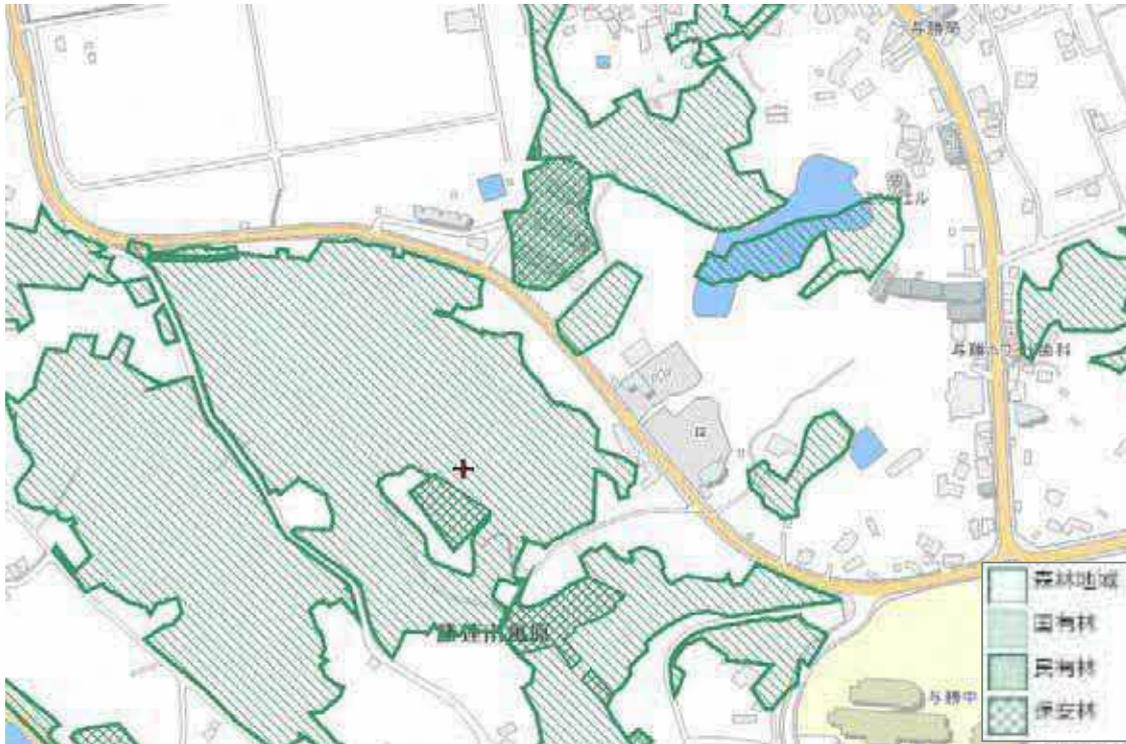


■ 農業振興地域



出所：沖縄県地図情報システム

■ 森林関係



出所：沖縄県地図情報システム

③関連する主な既存計画・調査等

計画・調査等名称	策定・実施年度
第3次うるま市観光振興ビジョン	令和4年度
うるま市景観計画	平成29年度 (改定)
勝連城跡保存管理計画	平成27年度
勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画	平成25年度

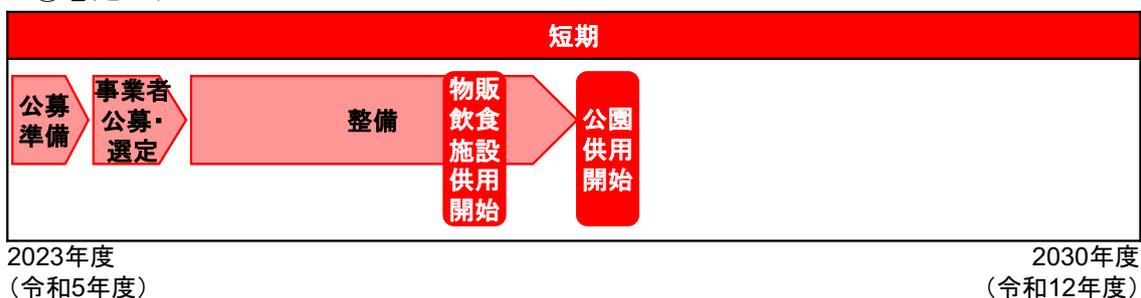
④プロジェクトの方向性

民間活力を導入し、勝連城跡の隣接エリアに公園を整備するとともに、物販・飲食施設の整備運営及び勝連城跡や既存施設等の運営を行う「勝連城跡周辺整備事業」の実施に向けて準備を進めます。

⑤公民連携の方針

民間事業者の資金やノウハウを活用して魅力的な拠点を効果的に形成するため、PFI手法を採用して事業を実施します。実施にあたっては、市が求める事業内容のほか、民間事業者の提案により自主事業として実施する収益施設の整備運営を含め、民間事業者の積極的な創意工夫や提案により、消費・滞在の拠点としての一層の魅力向上を期待しています。

⑥想定スケジュール



※維持管理・運営を含む詳細スケジュールは次頁参照



プロジェクト  
2

海中道路やあやはし館・ロードパークの魅力向上

■ 基本方針との対応

(1) 消費や滞在の受け皿となる誘客拠点の形成

(2) 選ばれる地域となるための特色ある魅力づくり

(3) 誘客の恩恵を地域全体に波及させるための環境整備

■ 取組期間

**短期**  
概ね 2030 年度までの完了を目指す

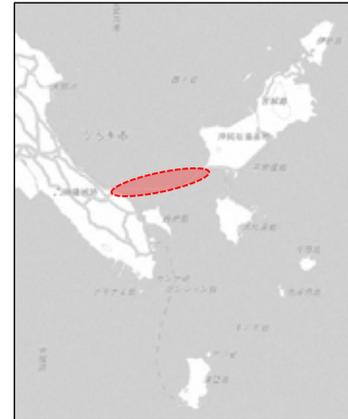
**中期**  
概ね 2035 年度までの完了を目指す

**長期**  
2036 年度以降の完了を目指す

■ 担当課・関係課

担当課	観光イベント課、スポーツ課
関係課	文化財課

■ 位置図



出所：国土地理院地図（淡色地図）を加工して作成

位置関係



対象地に立地する施設

■ 海中道路・ロードパーク



■ 海の駅 あやはし館



出所（写真左）：うるまいろ（一般社団法人うるま市観光物産協会 公式WEBサイト）

### ①背景及び課題

海中道路は、世界遺産勝連城跡と並ぶ勝連・与那城地域の主要な観光スポットとなっています。左右両側に海を臨みながら勝連半島から平安座島へとまっすぐに伸びる道路は圧巻で、多くの観光客で賑わうほか、市民や県民のドライブスポットとしても愛されています。また、周辺ではウィンドサーフィン等のマリンスポーツ・アクティビティを楽しむ人も多く訪れています。

海中道路の中央あたりには、1階の観光物産機能や飲食機能、2階の「海の文化資料館」で構成される海の駅あやはし館があり、来訪者の休憩スポットや消費・滞在の場として利用されています。また、あやはし館に隣接して、道路に並行するように整備された300台収容の駐車場「ロードパーク」も立地しています。

このようなユニークなロケーションであることから、観光誘客や消費・滞在の拠点としての大きなポテンシャルを有している施設・エリアですが、開業後約20年が経過するあやはし館の機能の陳腐化や、施設の管理運営面における諸問題、更には隣接するロードパークの有効活用の必要性といった様々な課題があり、未だそのポテンシャルが十分に発揮されているとは言い難い状況です。

### ②対象地・対象施設の概要

#### ア あやはし館

所在地	与那城屋平4
建築年月	平成14年(2002年)12月
構造・階数	鉄筋コンクリート造、地上2階建
面積	敷地面積：7,959㎡ 建築面積：1,508㎡ 延床面積：1,974㎡(2階部分の「海の文化資料館」を含む)
法規制等	・都市計画区域(用途未指定)
所有者	うるま市

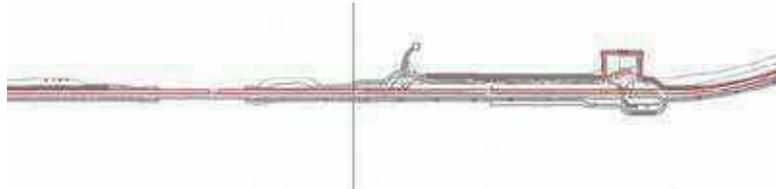
#### イ ロードパーク

所在地	与那城屋平2
駐車場台数	300台
所有者	沖縄県

## 対象地周辺の法規制等

### ■ 都市計画図

五、第	
都市計画区域(2)多摩市全域	100
第一種市街地留保地域	101
第一種市街地留保地域	102
第二種市街地留保地域	103
第一種住居地域	104
第二種住居地域	105
原住地域	106
近隣商業地域	107
商業地域	108
準工業地域	109
工業地域	110
工業専用地域	111
緑地(緑地保全)地区(緑地保全)	112
緑地(緑地保全)地区(緑地保全)	113
道路(道路)地区(道路)	114
道路(道路)地区(道路)	115
河川(河川)地区(河川)	116
河川(河川)地区(河川)	117
河川(河川)地区(河川)	118
河川(河川)地区(河川)	119
河川(河川)地区(河川)	120
河川(河川)地区(河川)	121
河川(河川)地区(河川)	122
河川(河川)地区(河川)	123
河川(河川)地区(河川)	124
河川(河川)地区(河川)	125
河川(河川)地区(河川)	126
河川(河川)地区(河川)	127
河川(河川)地区(河川)	128
河川(河川)地区(河川)	129
河川(河川)地区(河川)	130
河川(河川)地区(河川)	131
河川(河川)地区(河川)	132
河川(河川)地区(河川)	133
河川(河川)地区(河川)	134
河川(河川)地区(河川)	135
河川(河川)地区(河川)	136
河川(河川)地区(河川)	137
河川(河川)地区(河川)	138
河川(河川)地区(河川)	139
河川(河川)地区(河川)	140
河川(河川)地区(河川)	141
河川(河川)地区(河川)	142
河川(河川)地区(河川)	143
河川(河川)地区(河川)	144
河川(河川)地区(河川)	145
河川(河川)地区(河川)	146
河川(河川)地区(河川)	147
河川(河川)地区(河川)	148
河川(河川)地区(河川)	149
河川(河川)地区(河川)	150
河川(河川)地区(河川)	151
河川(河川)地区(河川)	152
河川(河川)地区(河川)	153
河川(河川)地区(河川)	154
河川(河川)地区(河川)	155
河川(河川)地区(河川)	156
河川(河川)地区(河川)	157
河川(河川)地区(河川)	158
河川(河川)地区(河川)	159
河川(河川)地区(河川)	160
河川(河川)地区(河川)	161
河川(河川)地区(河川)	162
河川(河川)地区(河川)	163
河川(河川)地区(河川)	164
河川(河川)地区(河川)	165
河川(河川)地区(河川)	166
河川(河川)地区(河川)	167
河川(河川)地区(河川)	168
河川(河川)地区(河川)	169
河川(河川)地区(河川)	170
河川(河川)地区(河川)	171
河川(河川)地区(河川)	172
河川(河川)地区(河川)	173
河川(河川)地区(河川)	174
河川(河川)地区(河川)	175
河川(河川)地区(河川)	176
河川(河川)地区(河川)	177
河川(河川)地区(河川)	178
河川(河川)地区(河川)	179
河川(河川)地区(河川)	180
河川(河川)地区(河川)	181
河川(河川)地区(河川)	182
河川(河川)地区(河川)	183
河川(河川)地区(河川)	184
河川(河川)地区(河川)	185
河川(河川)地区(河川)	186
河川(河川)地区(河川)	187
河川(河川)地区(河川)	188
河川(河川)地区(河川)	189
河川(河川)地区(河川)	190
河川(河川)地区(河川)	191
河川(河川)地区(河川)	192
河川(河川)地区(河川)	193
河川(河川)地区(河川)	194
河川(河川)地区(河川)	195
河川(河川)地区(河川)	196
河川(河川)地区(河川)	197
河川(河川)地区(河川)	198
河川(河川)地区(河川)	199
河川(河川)地区(河川)	200



### ③関連する主な既存計画・調査等

計画・調査等名称	策定・実施年度
ロードパーク活性化基本計画	策定中

### ④プロジェクトの方向性

ロードパークは現状、沖縄県が所有・管理しており、うるま市主導による柔軟な利活用が難しい状況にあります。しかし近年、関係者の間でうるま市の権限の拡大や施設の位置づけの見直しに向けた機運が高まっています。

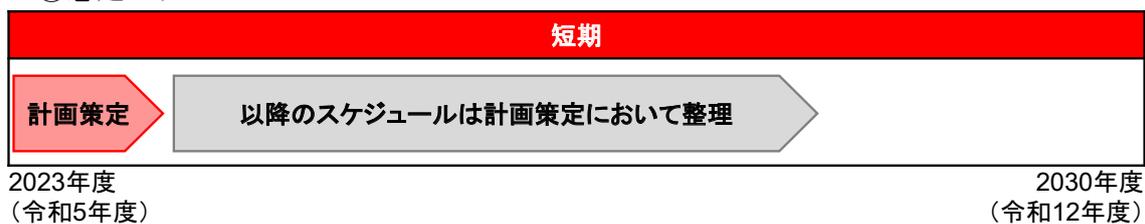
こうした機をとらえ、うるま市は令和4年度に「ロードパーク活性化基本計画」の策定に取り組んでいます。同計画の検討の中で、ロードパークやあやはし館の今後のあり方や目指す方向性について取りまとめ、魅力向上に向けた取組につなげていくことを予定しています。

### ⑤公民連携の方針

観光誘客や消費・滞在の拠点としてのポテンシャルは大きいと考えられ、民間事業者の資金やノウハウを活用した魅力向上の余地も大きいと想定されます。そのため、計画段階から民間事業者との対話を行い、市場性や実現可能性を勘案しながら最適な方向性を検討するとともに、事業実施段階においても、民間活力の導入を図ることのできる手法の採用を念頭に検討します。

なお、具体的な方針については、現在策定中の「ロードパーク活性化基本計画」において整理する予定です。

⑥想定スケジュール



プロジェクト  
3

旧与那城庁舎周辺及び県道37号線沿道の利活用推進  
～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～

■ 基本方針との対応

（1）消費や滞在の受け皿となる誘客拠点の形成

（2）選ばれる地域となるための特色ある魅力づくり

（3）誘客の恩恵を地域全体に波及させるための環境整備

■ 取組期間

**短期**  
概ね2030年度までの完了を目指す

**中期**  
概ね2035年度までの完了を目指す

**長期**  
2036年度以降の完了を目指す

■ 担当課・関係課

担当課	プロジェクト推進2課、観光イベント課、スポーツ課
関係課	企画政策課、都市政策課、農林水産政策課、農林水産整備課、環境課、公園整備課、その他施設への入居を予定する課

■ 位置図



出所：国土地理院地図（淡色地図）を加工して作成

位置関係





対象地に立地する施設

■ 陸上競技場



■ 多目的広場



■ 旧与那城庁舎



■ 多種目球技場



### ①背景及び課題

旧与那城庁舎は、旧与那城町の役場庁舎として使われていた施設であり、現在は民間事業者の所有となっています。旧与那城庁舎が立地する場所は海中道路の入口に位置し、周辺には与那城総合公園内のスポーツ施設（陸上競技場、多目的広場、庭球場、多種目球技場等）が集積しています。与那城総合公園はマラソン・サイクリング等のスポーツ大会やエイサーまつり等で利用されるなど、地域のイベント拠点としての位置づけにもなっています。

勝連・与那城地域の主要観光スポットである世界遺産勝連城跡と海中道路をつなぐ位置にあることから宿泊施設としての利活用が期待されていますが、未だ取組の方向性が明確になっているとは言い難い状況です。

また、旧与那城庁舎から海岸沿いの県道 37 号線を北西に進むと、物販、飲食、バーベキュー等の機能を有する東照間商業等施設（TERUMA）がありますが、その間（2km 弱）に店舗等はほとんどなく、また、道路と海岸の間には樹木が生い茂り景観を阻害している箇所があるほか、道路の老朽化や旧与那城庁舎前の海中道路入口海域における自然環境の悪化等により、エリア一帯の魅力向上は実現できていない状況です。

### ②対象地・対象施設の概要

#### ア 与那城総合公園

所在地	与那城中央 4
面積	12.4ha
アクセス	那覇空港から沖縄自動車道経由で約 60 分
法規制等	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都市計画区域（用途未指定）</li> <li>• 特定用途制限地域（幹線道路沿道地区、集落環境保全地区）</li> <li>• 都市公園</li> </ul>

#### イ 旧与那城庁舎

所在地	与那城中央 1
建築年月	平成 6 年（1994 年）1 月
構造・階数	鉄筋コンクリート造、地上 4 階建
面積	敷地面積：13,955 m <sup>2</sup> 建築面積：2,491 m <sup>2</sup> 延床面積：5,603 m <sup>2</sup>
所有者	建物：民間事業者 土地：うるま市

#### ウ 与那城総合公園陸上競技場

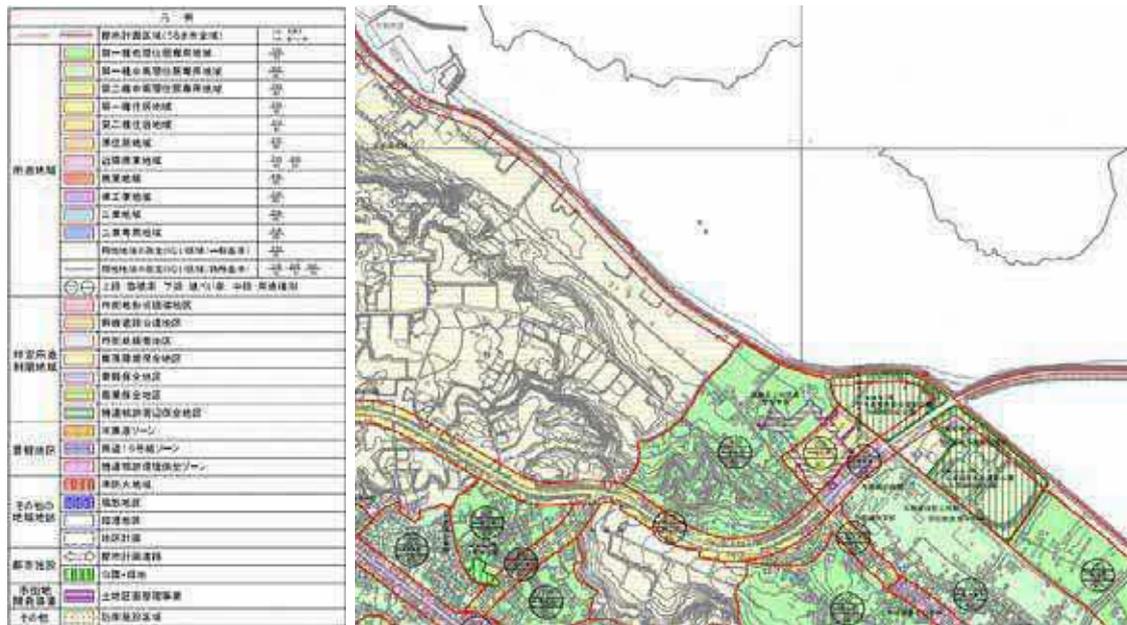
所在地	与那城中央 5
設置年月	平成 5 年（1993 年）9 月
面積	21,548 m <sup>2</sup>
所有者	うるま市
運営	指定管理者

エ 与那城総合公園多種目競技場

所在地	与那城屋慶名 446-2
設置年月	平成 15 年（2003 年）3 月
面積	17,840 m <sup>2</sup>
所有者	うるま市
運営	指定管理者

対象地周辺の法規制等

■ 都市計画図

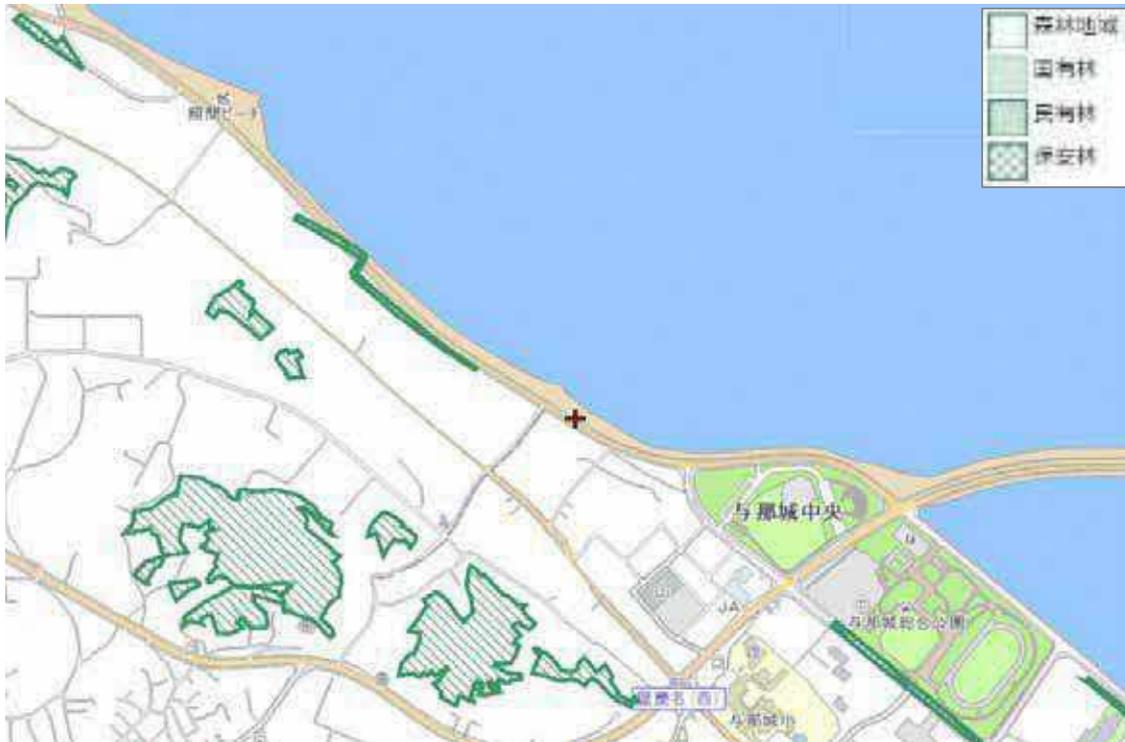


■ 農業振興地域



出所：沖縄県地図情報システム

■ 森林関係



出所：沖縄県地図情報システム

### ③関連する主な既存計画・調査等

計画・調査等名称	策定・実施年度
(仮称) うるま市総合アリーナ整備基本計画	令和4年度
海中道路周辺海域自然環境再生事業	令和元年度
うるま市スポーツ推進計画	平成30年度
東海岸開発基本計画	平成22年度

### ④プロジェクトの方向性

具志川地域の具志川運動公園内で計画されている「(仮称)うるま市総合アリーナ」の整備では、同公園内の具志川総合グラウンドの敷地を利用する想定であることから、市内の陸上競技場機能を与那城総合公園陸上競技場に集約化し、あわせて全天候型トラックに改修することを検討しています。このような背景を踏まえ、旧与那城庁舎周辺は、陸上競技場におけるサッカー、陸上競技等を中心としたスポーツ合宿・キャンプの受入拠点としての利活用を推進するとともに、海中道路におけるマリンスポーツ・アクティビティやサイクリング等に関連する機能の導入もあわせて検討するなど、付加価値の高い拠点の形成を目指します。

県道37号線沿道では、沿道利活用活性化に向けた土地利用への見直しを図るとともに、海岸の視界を遮る樹木の伐採、道路の老朽化対策、海中道路入口海域における環境改善等のエリア価値向上に向けた取組を進め、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進します。

なお、旧与那城庁舎周辺から屋慶名港・屋慶名展望台までの沿岸部で利活用が図られていない一部の土地については、地域住民や民間主体による利活用について、市としての取組や関与の方針を検討します。また、本プロジェクトの対象エリアに近接する地区の活性化方策を定めた市の既存計画に「東海岸開発基本計画」がありますが、本プロジェクトによるエリアの活性化の延長線上にあるものと位置づけ、本プロジェクトが一定の成果を上げた後に取り組むこととします。

### ⑤公民連携の方針

旧与那城庁舎周辺の利活用では、陸上競技場の改修や公園内への合宿受入施設の整備や、合宿・キャンプ誘致等のソフト面の取組において公民連携の可能性が考えられます。また、県道37号線沿道の利活用については、うるま市が規制緩和や景観・交通環境・海中道路入口環境の改善といったエリア価値向上の取組を行うことで、民間事業者の投資を誘発するという観点での連携が必要となります。対象エリアや事業規模が大きいプロジェクトとなるため、事業実施にあたってはいくつかの事業や段階に分けて進めていくことが想定されますが、いずれの事業においても民間活力の導入を前提とし、計画段階から民間事業者との対話を積極的に実施します。

また、面的な魅力向上を図るためには、明確なコンセプトに基づくエリア一帯が連携したまちづくりを進めていく必要があることから、中長期的には、個別事業より上流のエリアマネジメント等の活動についても、市や地域住民、関係団体等とあわせて、関係する民間事業者を巻き込み推進していくことを目指します。

⑥想定スケジュール

